

削り更ニ第一項トシテ工科第三年ニ於テ電氣工學採鑛冶金學應用化學造兵學科志望者ニハ圖畫
 二時ヲ缺キ其時間ニ於テ化學實驗ヲ課スノ一項ヲ加ヘ第二項ノ末文測量ヲ缺キヲ測量ヲ缺クト
 シ「林學科志望者以下ヲ削ル
 同條大學豫科第二部(醫)ノ學科目中第一外國語トアルヲ「獨語」第二外國語トアルヲ英語若クハ
 佛語ト改メ欄外ノ解說ヲ削ル

〔參照〕

文部省令第十八號大學豫科規程(明治二十七年七月二十一日)抄錄
 第二條 第一部ノ學科ハ倫理國語及漢文外國語歴史地理數學物理化學動物及植物論理經濟通論法學體操トス
 第四條第二項
 第二外國語ハ生徒ノ隨意科トシテ課スルコトヲ得
 第五條 大學豫科ノ各學科授業ノ時數凡左ノ如シ
 大學豫科第一部(法文)

倫理	第一一年		第二二年		第三三年	
	法	文	法	文	法	文
國語及漢文	六	六	六	六	六	六
第一外國語	九	八	八	八	八	八
第二外國語	五	四	四	六	四	四
歷史	四	三	三	三	三	三
地理	(三)	(三)				
數學	(三)					

法科ニ在テハ第一外國語ハ獨語若クハ佛語トシ第二外國語ハ英語トス
 文科ニ在テハ英文學科志望者ニハ英語ヲ第一外國語トシ獨語若クハ佛語ヲ第二外國語トシ佛蘭西文學科志望者ニ
 ハ佛語ヲ第一外國語トシ英語若クハ獨語ヲ第二外國語トシ其他ノ學科志望者ニハ獨語ヲ第一外國語トシ英語若ク
 ハ佛語ヲ第二外國語トシテ之ヲ課ス
 第一一年ニ於テ法科志望者ニハ數學ヲ缺キ文科哲學志望者ニハ地理ヲ缺キ其他ノ學科志望者ニハ生徒ノ隨意ニヨリ
 其一ヲ缺クコトヲ得第二二年ニ於テ法科志望者ニハ物理ヲ缺キ文科志望者ニハ經濟通論ヲ缺ク第三年文科ニ於テハ
 化學及法學通論ヲ生徒ノ隨意科トシ其一ヲ撰修セシムルコトヲ得漢文學科志望者ニハ第二外國語ヲ課セス其時間
 ニ於テ漢文ヲ課ス
 大學豫科第二部(工農)ノ各學科授業時數表欄外解説
 第一外國語ハ英語トシ第二外國語ハ獨語トス
 理科第三年ニ於テ數學星學物理學科志望者ニハ化學三時(實驗)圖畫動物及植物ヲ缺ク化學科志望者ニハ圖畫
 測量動物及植物ヲ缺ク動物學科地質及礦物學科志望者ニハ數學測量ヲ缺キ及化學一時(實驗)ヲ缺ク農學科
 農藥化學科志望者ニハ數學ヲ缺キ獸醫學科志望者ニハ數學測量ヲ缺キ林學科志望者ニハ化學二時(實驗)ヲ缺ク
 大學豫科第三部(醫)ノ各學科授業時數表欄外解説
 第一外國語ハ獨語トス

物理	第一一年		第二二年		第三三年	
	法	文	法	文	法	文
動物及植物		(三)				(三)
論理		三		三		三
經濟通論			(三)			三
法學通論					四	三
體操	三	三	三	三	(四)	三
計	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

○陸軍省令第十二號

臨時臺灣電信建設部長職務規程左ノ通定

明治二十八年七月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條 臨時臺灣電信建設部長ハ部内ノ事務ヲ整理シ及部下ノ職員ヲ監督ス

第二條 臨時臺灣電信建設部長ハ事務官以下ニ職務ヲ課シ又ハ事務分掌規程ヲ設クルコトヲ得

第三條 臨時臺灣電信建設部長ハ事業ノ必要ニ應シ事務官以下ヲ差遣シ又ハ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第四條 臨時臺灣電信建設部長ハ其名義ヲ以テ部外ノ官衙ト交渉シ又ハ其專行ニ屬スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

第五條 臨時臺灣電信建設部長ハ本事業ニ關シ重大ノ事件ヲ除ク外殊ニ委任ノ條項其他輕易ノ事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得

○陸軍省令第十三號

臨時臺灣燈標建設部長職務規程左ノ通定

明治二十八年七月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條 臨時臺灣燈標建設部長ハ部内ノ事務ヲ整理シ及部下ノ職員ヲ監督ス

第二條 臨時臺灣燈標建設部長ハ事務官以下ニ職務ヲ課シ又ハ事務分掌規程ヲ設クルコトヲ得

第三條 臨時臺灣燈標建設部長ハ事業ノ必要ニ應シ事務官以下ヲ差遣シ又ハ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第四條 臨時臺灣燈標建設部長ハ其名義ヲ以テ部外ノ官衙ト交渉シ又ハ其專行ニ屬スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

○陸軍省令第十三號

臨時臺灣燈標建設部長職務規程左ノ通定

明治二十八年七月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一條 臨時臺灣燈標建設部長ハ部内ノ事務ヲ整理シ及部下ノ職員ヲ監督ス

第二條 臨時臺灣燈標建設部長ハ事務官以下ニ職務ヲ課シ又ハ事務分掌規程ヲ設クルコトヲ得

第三條 臨時臺灣燈標建設部長ハ事業ノ必要ニ應シ事務官以下ヲ差遣シ又ハ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第四條 臨時臺灣燈標建設部長ハ其名義ヲ以テ部外ノ官衙ト交渉シ又ハ其專行ニ屬スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

部ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得
第五條 臨時臺灣燈標建設部長ハ本事業ニ關シ重大ノ事件ヲ除ク外殊ニ委任ノ條項其他輕易ノ事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得

○海軍省令第一號

海軍少藥劑官候補生採用試験規則左ノ通定

明治二十八年七月九日

海軍大臣伯喬西郷從道

海軍少藥劑官候補生採用試験規則

第一條 海軍高等武官候補生規則第四條ニ依リ海軍少藥劑官候補生ヲラントスル者ハ願書第一號ニ履歷書第二號ヲ添ヘ告示シタル試験期日十日前マテニ海軍衛生會議ニ差出スヘシ

前項ノ試験期日ハ少クとも一箇月前ニ官報ヲ以テ告示スヘシ
第二條 試験ヲ受ケントスル者ニハ先ツ身體検査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 學術試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- | | | | |
|---|------|---|-------|
| 一 | 物理學 | 一 | 分析術 |
| 二 | 化學 | 二 | 藥品鑑定 |
| 三 | 植物學 | 三 | 飲食物試験 |
| 四 | 生藥學 | 四 | 藥物製煉 |
| 五 | 製藥化學 | 五 | 調劑術 |
| 六 | 裁判化學 | | |

前記科目ノ外ニ隨意科トシテ英學若クハ獨逸學ヲ試験ス
第四條 學術試験ハ分チテ筆記試験及實地試験トス

筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ實地試験ヲ受クルコトヲ得ス
第五條 試験合格ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

試験合格ノ有効期限ハ一箇年間トス

第六條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケント企タル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス試験合格ノ後は等ノ事實ヲ發見シタルトキハ其合格ハ無効トス
試験當日開始ノ時刻ニ出席セサルモノハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
第一號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)
海軍少藥劑官候補生採用試験願

海軍少藥劑官候補生採用試験願

私儀海軍少藥劑官候補生採用試験相受度履歷書相添此段奉願候也

隨意科

何

年月日

本籍

姓 名
何年何月何日生
年號月何年何箇月

第二號書式(用紙美濃紙ニツ折一通)
履歷書

現住所

何府縣士族平民
月主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍
姓 名

一 祖父母父母(發子ハ養育共ニ之ヲ記ス亡ナレハ亡ト記シ父兄位勳アレハ存亡共ニ之ヲ記スヘシ)
兄弟姉妹名

何年何月何日生
年號月何年何箇月

- 一 本籍(國)市町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記ス(ヘシ)
- 一 現住地(右同)
- 一 官立公立其他學校ノ卒業證書寫内務省藥劑師試驗及第證書並ニ藥劑師免狀寫
- 一 官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事(各附令)
- 一 現ニ官廳ニ奉職スル者ハ所屬長官ノ受驗認可書ヲ要ス
- 一 賞罰 賞狀及
罰文寫

右者海軍高等武官候補生規則第八條ニ抵觸セス且其出生年月ニ相違無之候也

何府縣何國何市區何町村
市區町村長 本籍ノ市
區町村長 姓

名印

○内務省令第六號

米國ニ於テ發行スル桑港時事第三十三號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ依リ自今内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フヘシ
明治二十八年七月十一日 内務大臣子爵野村 靖

○陸軍省令第十四號

陸軍給與令細則第九章第二十四條ニ左ノ一項ヲ加ヘ同章ノ末ニ已表ヲ加フ
明治二十八年七月十一日 陸軍大臣伯爵大山 巖
前項ニ依リ官有又ハ借入雇入ノ船舶ニ乘込ミ官ヨリ賄ヲ爲サ、ルトキハ已表ノ食卓料ヲ給ス
己表

名	稱	日	額
大	將 高 等 官 親 任 壹 圓 七 拾 錢		
相 將	官 同 二 等 壹 圓 五 拾 錢		

上	長 官 同 同	三 等 以 下 壹 圓 貳 拾 錢
士	官 同 同	五 等 以 下 壹 圓 拾 錢
進	士 官 試 任 補 九 拾 錢	
下	士 判 任 官 七 拾 錢	
本		五 拾 錢

(參照)
陸軍省令第十號陸軍給與令細則(明治二十三年四月一日抄錄)
第九章 旅費
第二十四條 差遣巡回出張等ノ節官有又ハ借入雇入ノ舟車馬ニテ旅行シ若クハ本令第六十五條但書ノ場合ニ依リ特ニ汽車料船料馬料ノ實費拂フ許可シタルトキハ日當ノミヲ給ス

○内務省令第七號

古社寺保存金出願規則左ノ通相定ム
明治二十八年七月十二日 内務大臣子爵野村 靖

古社寺保存金出願規則
第一條 古社寺保存金ハ全國著名ノ神社寺院及神社寺院ニ屬スル名所舊蹟ノ古建物碑碣並ニ神社寺院所傳ノ寶物古文書圖書彫刻物及其他ノ什物類ニシテ左項ノ一ニ該當スルモノニ限り之ヲ下附スルモノトス

- 一 歷代ノ皇室皇族並ニ武門武將ニ深厚ノ由緒アル物
- 二 國史上顯著明晰ナル物
- 三 壯麗精妙ニシテ美術ノ模範トナルヘキ物
- 四 名所舊蹟ノ風致美觀ニ關係アル物

五 從前式年造營ヲ爲シタル神社寺院
 六 文明十八年以前ノ建築ニ係ル建物ヲ有スル神社寺院
 七 元祿十六年以前ノ建築ニ係ル建物ヲ有スル神社寺院ニシテ本條第一號第二號第三號又ハ第四號ニ該當スルモノ
 第二條 此規則ニ依リ古社寺保存金ノ下附ヲ受ケントスルモノハ官國幣社ハ宮司、府縣社以下神社ハ神職及氏子總代(氏子總代ナキハ信徒總代)、寺院ハ住職權徒總代(權徒總代ナキハ信徒總代)及本寺法類ヨリ北海道廳長官府縣知事ヲ經テ內務大臣ニ出願スヘシ
 第三條 第二條ノ出願者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 出願ノ事由
 二 名稱、由緒、創造改造又ハ修繕ノ年月日及神社寺院ニアリテハ其境內地及建物ノ坪數見取圖、名所舊蹟ノ古建物碑碣ニアリテハ坪數見取圖並ニ寶物類ニアリテハ見取圖
 三 維持保存ノ方法
 但神社寺院ニアリテハ財產目錄及最近三箇年間平均收入支出表ヲ添付スヘシ
 第四條 此規則ニ依リ古社寺保存金ノ下附ヲ受ケントスルモノハ下附ノ時ニ於テ下附金額十倍以上ノ保存資金ヲ具備スルヲ要ス但保存資金ハ之ニ相當ノ價格ヲ有スル有價證券土地又ハ山林ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
 第五條 第一條ニ該當スル神社寺院ニシテ下附金額十倍以上ノ保存資金ヲ具備スル能ハサルモノハ其特ニ第一條第一號第二號第三號又ハ第四號ニ該當スル物件ニ限リ第四條ノ規定ニ依ラスシテ古社寺保存金ヲ下附スルコトアルヘシ
 第六條 第一條ニ該當スル物件ノ補修修繕並ニ古社寺保存金及第四條ノ財產管理ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム
 第七條 從前ノ令達及其他ノ命令ニシテ此規則ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

○農商務省令第七號

商業會議所條例第七條第二項ニ依リ北海道ニ設立スル商業會議所會員選舉權被選舉權ニ關スル財產上ノ資格ハ所得稅ニ代フルニ地方稅ヲ以テシ且其納額三圓以上ト定ム
 明治二十八年七月十九日
 農商務大臣子爵榎本武揚

〔參照〕

法律第八十一號商業會議所條例(明治二十三年九月十二日官報抄録)
 第七條 第五條及第六條ニ掲ケタル會員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル財產上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ所得稅額又ハ會社取引所ノ資本額ニ基キ特ニ之ヲ規定スルコトヲ得
 所得稅法第二十九條但書ニ掲ケタル地方ニ在テハ農商務大臣ハ所得稅ニ代フルニ他ノ稅ヲ以テシ且其稅額ニ基キ財產上ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

○內務省令第八號

明治二十八年法律第十三號古物商取締法細則左ノ通り之ヲ定ム
 明治二十八年七月二十六日

古物商取締法細則

內務大臣子爵野村 靖

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
 警視總監北海道廳長官府縣東京府以下之ニ依リテ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警察分署長島司、地役人若シハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若ハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス
 第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ關スル古物ヲ賣買、交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

異服商 金物商 袋物商 小間物商
藍甲商 時計商 飾商 書籍商

其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業
 第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設ケルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノ、外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ
 第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍住所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ
 後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ
 後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ
 第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ
 第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
 第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ヘシ
 第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ
 家屬又ハ同居ノ雇人ニ限り行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項

ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ
鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ羅賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時並場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十二條 古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取リ讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劔又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○内務省令第九號

明治二十八年法律第十四號質屋取締法細則左ノ通り之ヲ定ム

明治二十八年七月二十六日

質屋取締法細則
第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於

内務大臣子爵野村 靖

テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
 警視總監北海道廳長官府縣以下之ニ限リ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長警察分署長島司地役人
 若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ
 處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 支店ヲ設ケルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍住所氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳
 ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非戸主ナ
 ルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ
 區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人
 ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第五條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ヘシ

第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質
 契約ヲ爲ス毎ニ貸金額質物ノ種類員數番號年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及様式ハ廳府縣令ヲ
 以テ定ムルコトヲ得

第八條 第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ
 處ス

第九條 此細則ニ規定シタルモノハ外警視總監北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發ス
 ルコトヲ得

○陸軍省令第十五號

明治二十八年陸軍省令第六號臨時陸軍檢疫部檢疫規則中第十二各臨時陸軍檢疫所長ノ下ニ及次
長ノ三字ヲ追加ス

明治二十八年八月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸軍省令第六號臨時陸軍檢疫部檢疫規則(明治二十八年四月二十六日)抄録
第十二 各臨時陸軍檢疫所長ハ事務官ヲ以テ之ニ充テ其下ニ事務官書記職員及傭人並ニ囑託ヲ置ク

○内務省令第十號

府社縣社以下神社神職登用規則左ノ通相定ム

明治二十八年八月七日

内務大臣子爵野村 靖

府社縣社以下神社神職登用規則

第一章 社司及社掌ノ資格

第一條 社司社掌試驗ニ及第シタル者ニアラザレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス

第二條 左項ノ一ニ當ル者ニシテ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ試驗ヲ經スシテ社司ニ補ス
ルコトヲ得

一 明治元年以前ニ於テ五代以上引續キ其神社ニ奉祀シタル者ノ子孫

二 神宮皇學館本科及專科ヲ卒業シタル者

三 皇典講究所六等以上ノ學階證書ヲ有スル者

四 滿二年以上判任待遇以上ノ職ニ在リタル者

第三條 左項ノ一ニ當ル者ニシテ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ試驗ヲ經スシテ社掌ニ補ス
ルコトヲ得

一 明治元年以前ニ於テ五代以上引續キ其神社ニ奉仕シタル者ノ子孫

二 神宮皇學館本科及專科ヲ卒業シタル者

三 皇典講究所八等以上ノ學階證書ヲ有スル者

四 滿二年以上判任待遇以上ノ職ニ在リタル者

第四條 官國幣社神職及神職タリシ者ハ試験ヲ經スシテ社司社掌ニ補スルコトヲ得

第二章 社司及社掌候補者ノ推薦

第五條 神社ニ神職ノ闕員アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ十五日以内ニ氏子氏子ナキトハ信徒ニ總代氏子ナキトハ信徒ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ

第六條 第五條ノ場合ニ於テ氏子氏子ナキトハ信徒ニ總代ハ命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ其候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ推薦スヘシ

第七條 社司及社掌ノ候補者ハ闕員ノ二倍トス

第八條 氏子氏子ナキトハ信徒ニ總代ニ於テ候補者ヲ推薦シタルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ其履歷及資格ヲ調査シ學識德行其任ニ適スルモノヲ選擇シテ其職ニ補スヘシ

第九條 第八條ノ場合ニ於テ候補者其任ニ適セスト認ムルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ更ニ第五條ノ規定ニ依リ氏子氏子ナキトハ信徒ニ總代ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ

第三章 附則

第十條 此規則ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

第十一條 此規則施行前ヨリ在職ノ者ハ引續キ其職ニ在ルコトヲ得

第十二條 明治二十五年七月十日當省訓令第五號其他此規則ニ抵觸スル命令ハ總テ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十五年三月十日內務省訓令第五號ハ府縣社以下神官ニ適當ト認ムル者ハ皇典講究所學階試驗ニ拘ラス神官タルノ認可ヲ與フルノ件ナリ

○陸軍省令第十六號

陸軍戰利品整理規程左ノ通り定ム

明治二十八年八月十日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

陸軍戰利品整理規程

第一條 日清戰役ニ關シ陸軍ニ於テ鹵獲シタル戰利品ヲ整理スル爲メ左ノ委員ヲ置ク

委員長 將官 一人

委員 佐尉官若クハ同等官 若干

書記 陸軍屬 若干

第二條 戰利品ハ之ヲ分テ兵備品及通常物品トシ其軍用ニ適スルモノヲ以テ兵備品トナシ其軍用ニ適セサルモノヲ以テ通常物品トス

第三條 兵備品ハ其所用ニ應シ之ヲ陸軍官衙ノ保管ニ屬シ通常物品ハ陸軍其他ノ官衙ニ於テ使用ノ必要アルモノヲ除ク外ハ紀念ノ爲メ之ヲ帝室ニ納メ若クハ軍隊其他公衆ノ縱覽ニ供スル陳列場或ハ神社佛閣ニ分與シテ永久之ヲ保存セシメ又以上ノ項目ニ該當セサルモノハ之ヲ賣却セシム

委員ハ前項ノ區分ニ依リ品目數量ヲ調査スヘシ

第四條 委員長ハ委員ヲ指揮シテ第二條第三條ニ基キ戰利品ノ整理ヲ審議シ其陸軍官衙ノ保管ニ屬スルモノハ案ヲ具シ陸軍大臣ノ指揮ヲ請ヒ其他ハ適宜處分シテ報告スヘシ

第五條 第三條ニ關シ運搬ノ爲メニ要スル費用ハ臨時軍事費ノ支辨ニ屬ス

但陸軍部外ニ送附スルモノト雖モ亦同シ
第六條 委員及書記ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ各其事務ニ服スヘシ

○農商務省令第八號

明治二十七年農商務省令第七號砂鐵採取法施行細則中左ノ通改正ス
農商務大臣子爵榎木武揚

明治二十八年八月十三日

第一條 第一項第一號ノ下又ハ第二號書式ヲ乃至第三號書式ニ改ム

第八條中第十條ヲ第十一條ニ第十八條ヲ第十九條ニ改ム

第十條第二項ヲ左ノ通改メ第三項ヲ追加ス
採取業ヲ廢止又ハ讓渡シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ

休業ノ場合ニ於テ明細表ニ掲グヘキ事項ナキトキハ前兩項ノ期日內ニ其旨届出ヘシ
附屬書式第二號ノ次ニ左ノ書式ヲ追加ス

第三號(正副三通)

砂(金)(錫)(鐵)採取業讓渡願

何年何月何日第何號許可
一 廳府縣郡市町村大小字
右採取事業令般(讓渡)若クハ加名)致度候ニ付許可相成度此段相願候也

年月日

住所族籍

讓渡人又ハ

採取人

氏 名印

但組合人アラハ
連署連印スヘシ

讓受人又ハ

氏 名印

農商務大臣爵氏名殿

(參照)

農商務省令第七號砂鐵採取法施行細則(明治二十七年七月二十四日)抄録

第一條 砂鐵採取ノ願書ハ第一號又ハ第二號書式ニ從ヒ之ヲ認メ第一號又ハ第二號書式ニ依リ調製シタル採取區域ノ實測
圖ヲ添ヘ明治二十七年勅令第百號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ差出スヘシ

但砂鐵採取ノ願書ニハ登記印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第八條 砂鐵採取法第十條ニ依リ採取許可ヲ取消ヲ請求スル者及同法第十八條ニ依リ所轄嶺山監督署長ノ判定又ハ農商務
大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ所轄嶺山監督署長ニ差出スヘシ

第十條 採取人ハ毎年二月第三號調製シタル前年中ノ採取業明細表ヲ所轄嶺山監督署ニ差出スヘシ
採取人讓業シタルトキハ三十日以内ニ前項ノ明細表ヲ差出スヘシ

○陸軍省令第十七號

陸地測量標條例施行細則左ノ通改正ス

明治二十八年八月十五日

陸軍大臣侯爵大山 巖

陸地測量標條例施行細則

第一條 陸地測量ハ三角測量水準測量及地形測量ノ三トス

第二條 陸地測量部ハ各測量ヲ施行セントスルトキ豫メ之ヲ所轄ノ道廳府縣廳ニ通知シ該廳ハ之
ヲ其地區ニ告示スヘシ

第三條 陸地測量部ハ地形測量ノ完成シタルトキハ之ヲ所轄道廳府縣廳ニ通知スヘシ

第四條 陸地測量部ハ道廳府縣廳若クハ高司郡市長ニ照會シ測量上必要ノ調査ヲ求ムルコトヲ得

但事宜ニ依リ出張測量官ヲ直ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本條例第五條ニ依リ測量主任官ノ攜帶スル證票左ノ如シ

表 陸地測量證
面 印

陸地測量部(何科)何
官 氏 名

第六條 標石及海岸水準點視標ハ永遠ニ保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

一等三角點標石 (第一圖)

二等或ハ三等三角點標石 (第二圖)

水準點標石 (第三圖)

海岸水準點視標 (以テ其形狀一定セス)

第七條 視標(海岸水準點視標ヲ除ク)標杭ハ地形測量ヲ終ル迄假杭ハ三角點視標或ハ水準點標石ヲ設置スル迄保存スヘキモノニシテ其種類左ノ如シ

三角點視標 (第四第五第六第七第八第九圖)

四等三角點標杭 (第十圖)

三角點或ハ一等水準點假杭 (第十一圖)

二等水準點標杭 (第十二圖)

地形圖根點視標 (第九圖)

地形圖根點標杭 (第十三圖)

地形水準點標杭 (第十四圖)

第八條 測量主任官測量標ヲ建設セントスルトキ御料地内ニ在テハ該地所屬ノ區別ニ依リ豫メ御料局或ハ同支廳又ハ支廳出張所ニ通知スヘシ

但事業ノ急施ヲ要シ其場所御料地所轄屬ト遠隔セルトキハ建設ノ後之ヲ通知スルコトヲ得

官有地第一種第二種神地(伊勢神宮並ニ在テハ其神社及所管屬ト協議シ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及民有社寺地同宅地ニ在テハ測旗假杭建設ノ外ハ其所管屬又ハ所有者ニ協議スヘシ

第九條 測量主任官ハ測量標ノ地形測量ニ際シ一時假設ヲ建設セルトキ其種類位置及坪數等ノ記載

シタル書類ヲ市長又ハ町村長ニ交付シ該敷地ニ係ル調査ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テ市町村長ハ其位置ノ國郡(市)町(村)字地目番地及官有ニ在テハ所轄屬名民有ニ在テハ所有者ノ住所氏名並ニ本條例第三條及第四條ノ規定ニ關シ敷地所有者ノ志望等ヲ調査シ取調書(第一(第二)號書式)或ハ建標請書(第三號書式)又ハ寄附願書(第四號書式)ヲ徵シ別ニ其原本一通ヲ添ヘ二週間内ニ測量主任官ニ送致スヘシ

第十條 測量主任官ハ前條ノ正本ヲ添ヘ官有地ニ係ルモノハ其所轄屬ニ民有地ニ係ルモノハ該地所轄ノ道廳府縣廳ニ通知スヘシ

第十一條 道廳府縣廳前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其正本ニ依リ敷地ノ買上ケ借入レ等ノ事ヲ處分シ其旨ヲ陸地測量部ニ通報スヘシ

第十二條 測量諸標ヲ建設シ其敷地ニ關スル處分結了シタルトキハ陸地測量部ニ於テ測量諸標及同敷地ノ明細書ヲ製シ之ヲ道廳府縣廳(東京府下ニ在ニ通知シ其保管ヲ求ムヘシ但東京府廳ヘハ別ニ本文ノ明細書ヲ送付シ置クヘシ

道廳府縣廳(東京府下ニ在ニ於テハ適宜保管ノ方法ヲ設ケ各地方警察署長分署長又ハ市町村長ヲシテ測量諸標及同敷地ヲ監守セシメ若シ亡失毀損其他異狀アルトキハ事由ヲ附シ之ヲ届出シメ其旨陸地測量部ニ通知スヘシ

陸地測量部ハ測量諸標ヲ移轉若クハ撤去シタルトキハ道廳府縣廳(東京府下ニ在テニ通知シ官有地ニ係ルモノハ猶其所轄屬ニ通知スヘシ

第十三條 陸地測量部ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其必要ニ應シテ修理又ハ改設ヲ執行シ更ニ道廳府縣廳(東京府下ニ在ニ通報スヘシ

第十四條 標石敷地ハ方一坪ニシテ標石ヲ以テ其中心ヲ領セシム

但地坪ハ地形ニ應シ本條ニ依リ難キトキハ格別トス

第十五條 規標、標杭、假杭ノ敷地ハ地形ト建標ノ種類ニ依リ異同アルヲ以テ豫メ一定セス

第十六條 標石敷地内ニ土砂塵埃其他雜物等ヲ堆積スルヲ許サス

第十七條 敷地買上代ハ其都度之ヲ支拂ヒ借地料ハ會計年度末ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

但借地料ハ其土地使用ノ當日ヨリ起算シ其一箇年ニ滿タサルモノハ月割ヲ以テ支拂フヘシ

第十八條 敷地買上代及借地料ハ本人ヨリ地方廳ニ請求書(第五號書式)ヲ差出シ該廳ハ審査ノ上之ヲ陸地測量部ニ回付スヘシ

但借地料請求書ハ三月五日迄ニ地方廳ニ差出シ該廳ハ同月十日限り之ヲ發送スヘシ

第十九條 官有ニ係ル竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置シタルトキハ測量主任官ハ其明細書ヲ

作リ所轄廳ニ報告シ所轄廳補償ヲ要スルトキハ相當ノ額ヲ定メ陸地測量部ニ請求スヘシ

第二十條 市町村又ハ人民ニ對スル補償金ノ支拂ハ出張測量官ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第二十一條 本條例第六條掲記外ノ土地ニ在テハ已ムヲ得サルトキト雖モ其所轄廳或ハ所有者ノ

承諾ヲ得ルニ非レハ障礙竹木ヲ伐除シ又ハ樹上ニ規標ヲ設置スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ前

二條ヲ適用ス

第二十二條 標石規標ハ陸地測量部ノ認可ヲ得ルニ非レハ使用スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ得ントスル者ハ豫メ使用ノ日數及其事由ヲ詳記シ陸地測量部ニ申請スヘシ

第二十三條 標石使用ノ爲メ新ニ要スル標旗標杭其他規標等ハ標石ヲ離ルハコト二尺以内ノ地ニ

建設スルヲ許サス

第二十四條 使用者標石ノ經緯度及真高ヲ要スルトキハ其種類番號位置ヲ詳記シ陸地測量部ニ請

求スヘシ

第二十五條 標石規標標杭ノ周圍ニ於テ之ヲ毀損スルノ虞アルカ又ハ其效用ヲ妨クヘキ事業ヲ爲

サントスルトキハ事由ヲ具シ設計圖ヲ添ヘ其移轉ヲ道廳府縣廳ニ請求スヘシ

第二十六條 道廳府縣廳前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ陸地測量部長ニ

移牒スヘシ

但移轉ノ爲メニ要スル費用ハ其請求者ノ負擔トス

第二十七條 陸地測量部長前條ノ移牒ヲ受ケ移轉ノ必要ヲ認ムルトキハ其移轉ニ要スル費用ノ概

算額ヲ定メ地方廳ヲ經テ之ヲ請求シ移轉執行ノ上ハ其決算ヲ爲シ證憑書類ヲ附シ該廳ニ送致ス

ヘシ

第二十八條 道廳府縣廳ハ前條ノ費用ヲ請求者ヨリ受取り陸地測量部ニ回付シ其決算書類ハ之ヲ

其請求者ニ送致スヘシ

第二十九條 測旗假杭ノ移轉ヲ要スヘキ事由アルトキハ出張測量主任官ニ請求シテ其承諾ヲ經ヘ

シ

但測量官ノ出張シアラサルトキハ第二十五條第二十六條ニ準スヘシ

第三十條 測量標敷地所在ノ町村名其他ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ道廳府縣廳ヨリ陸地測量

部ニ通知スヘシ

第三十一條 本則第十六條第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ犯シタル者ハ十一日以上二十五

日以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本則中市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戸長若ク

ハ之ニ準スル吏員ニ於テ之ヲ行フヘシ

第三十三條 本則ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス

三角點敷地取調書々式(第一號)

三角點敷地取調書 (用紙半紙野紙)

等級	番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	敷地	坪數	所轄	廳
三等	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

備考雜記 第何號ハ何神社境内第何號ハ何郡何村ノ境界ニ跨ル、第何號ハ官有地第何種何項等ノ類ヲ記載スヘシ

前書取調之通相違無之候也

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

陸地測量部 御中

水準點敷地取調書(第一號)

水準點敷地取調書 (用紙半紙野紙)

水準點	番號	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	敷地	坪數	接近地	所轄	廳
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

前書取調之通相違無之候也

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

陸地測量部 御中

建標請書(式)第三號(其一)

借地料並ニ敷地買上ケラテ請求スヘキ分)一、二、三等三角點

建標請書 (用紙半紙野紙)

等級	番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	備考
三等	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右誰所有(管理)誰等共有)地内(御部ニ於テ今般何等三角點御推定標石埋定規建設相成候ニ付左ノ件々御請申上候也

一標石敷地何坪ハ相當代價ヲ以テ買上ケ可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

一規標敷地何坪(何坪ハ除ク)ハ地形測量ヲ終ル迄規ノ借地料ヲ以テ買上ケ可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

前書取調之通相違無之候也 年 月 日 何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏 名職印

陸地測量部 御中

借地料並ニ敷地買上ケテ請求セサル分

等級	番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	備考
三等	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右誰所有(管理)誰等共有)地内(御部ニ於テ今般何等三角點御推定標石埋定規建設相成候ニ付左ノ件々御請申上候也

一標石敷地何坪ハ標石存在中無料買上(寄附)可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

一規標敷地何坪(何坪ハ除ク)ハ地形測量ヲ終ル迄規無料買上ケ可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

前書取調之通相違無之候也 年 月 日 何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏 名職印

陸地測量部 御中

等級	番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	備考
三等	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右誰所有(管理)誰等共有)地内(御部ニ於テ今般何等三角點御推定標石埋定規建設相成候ニ付左ノ件々御請申上候也

一標石敷地何坪ハ標石存在中無料買上(寄附)可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

一規標敷地何坪(何坪ハ除ク)ハ地形測量ヲ終ル迄規無料買上ケ可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

前書取調之通相違無之候也 年 月 日 何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏 名職印

陸地測量部 御中

等級	番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	字	地目	備考
三等	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右誰所有(管理)誰等共有)地内(御部ニ於テ今般何等三角點御推定標石埋定規建設相成候ニ付左ノ件々御請申上候也

一標石敷地何坪ハ標石存在中無料買上(寄附)可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

一規標敷地何坪(何坪ハ除ク)ハ地形測量ヲ終ル迄規無料買上ケ可申事 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地 右所有者 氏

前書取調之通相違無之候也 年 月 日 何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏 名職印

陸地測量部 御中

陸地測量部

御中

建標請書々式(第三號其一)

借地料ヲ請求ス(キ分四等三角點)

建標請書 (用紙半紙野紙)

等級	番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	字	地目	番地	備考
四等	何號	何々	何府縣	何國	何市郡	何町村	何	何	何	何	何	年月日撰定

右雖所有(管理)權等共有(地内)御部ニ於テ今般四等三角點御撰定標杭埋定規標建設相成候ニ付左ノ件御請申上候也
 一標杭敷地何坪(規標敷地何坪)ハ地形測量ヲ終ル迄成規ノ借地料ヲ以テ貸上ケ可申事
 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
 右所有者(共有者)氏

年號月日

前書之通相違無之候也

陸地測量部

御中

借地料ヲ請求セサル分

建標請書 (用紙半紙野紙)

等級	番號	名稱	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	字	地目	番地	備考
四等	何號	何々	何府縣	何國	何市郡	何町村	何	何	何	何	何	年月日撰定

右雖所有(管理)權等共有(地内)御部ニ於テ今般四等三角點御撰定標杭埋定規標建設相成候ニ付左ノ件御請申上候也
 一標杭敷地何坪(規標敷地何坪)ハ地形測量ヲ終ル迄無料貸上ケ可申事
 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
 右所有者(共有者)氏

年號月日

名印

前書之通相違無之候也

年號月日

陸地測量部

御中

建標請書々式(第三號其二)

敷地買上ケテ請求ス(キ分)一等水準點

建標請書 (用紙半紙野紙)

等級	番號	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	字	地目	番地	備考
一等	何號	何府縣	何國	何市郡	何町村	何	何	何	何	何	年月日撰定

右雖所有(管理)權等共有(地内)御部ニ於テ今般一等水準點御撰定標石埋定相成候ニ付左ノ件御請申上候也
 一標石敷地何坪ハ相當代價ヲ以テ買上ケ可申事
 何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
 右所有者(共有者)氏

年號月日

前書之通相違無之候也

陸地測量部

御中

敷地買上ケテ請求セサル分

建標請書 (用紙半紙野紙)

等級	番號	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	字	地目	番地	備考
一等	何號	何府縣	何國	何市郡	何町村	何	何	何	何	何	年月日撰定

右雖所有(管理)權等共有(地内)御部ニ於テ今般一等水準點御撰定標石埋定相成候ニ付左ノ件御請申上候也
 一標石敷地何坪ハ標石存在中無料貸上(寄附)可申事

前書之通相違無之候也
年號月日

陸地測量部
御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
右所有者(共有者)氏

名印
名職印

建標請書々式(第三號其四)

借地料ヲ請求ス(五分)二等水準點
建標請書 (用紙半紙對紙)

水準點	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	地目	備考
等級	番號							
二等	何號	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	年月日撰定

右陸所有(管理)陸等共有地内(御部ニ於テ今般二等水準點御撰定相成候ニ付左ノ件御請申上候也
一標杭敷地何坪ハ地形測量ヲ終ル迄放規ノ借地料ヲ以テ貸上ケ可申事

前書之通相違無之候也
年號月日

陸地測量部
御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
右所有者(共有者)氏

名印
名職印

借地料ヲ請求セサル分
建標請書 (用紙半紙對紙)

水準點	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	地目	備考
等級	番號							
二等	何號	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	年月日撰定

右陸所有(管理)陸等共有地内(御部ニ於テ今般二等水準點御撰定相成候ニ付左ノ件御請申上候也
一標杭敷地何坪ハ地形測量ヲ終ル迄放規ノ借地料ヲ以テ貸上ケ可申事

前書之通相違無之候也
年號月日

陸地測量部
御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地
右所有者(共有者)氏

名印
名職印

標石敷地寄附願書々式(第四號)

標石敷地寄附願書 (用紙半紙對紙)

何	等級	番號	名點	府(縣)	國	市(郡)	町(村)	大字	俗稱	地目	備考
何等	何號	何々	何々	何府(縣)	何國	何市(郡)	何町(村)	何々	何々	何々	年月日撰定

右陸所有(管理)陸等共有地内(御部ニ於テ今般何等三角(等水準點御撰定相成候ニ付該標石敷地何坪寄附仕度此段出願候也
前書之通相違無之候也
年號月日
右所有者(共有者)氏
名印

陸地測量部
御中

何府(縣)何市(郡)何町(村)長 氏

名職印

測量標敷地買上代請求書々式(第五號其一)

請求書 (用紙半紙對紙)

一金何租
但何府(縣)何國何市(郡)何町(村)大字何字何地目何々番地ノ内何坪何等三角(一等水準點標石敷地トシテ買上代
右請求候也

年號月日

陸地測量部

御中

測量標敷地借地料請求書々式(第五號其二)

請求書 (用紙半紙郵紙)

一金何程

但自明治何年何月至同年何月何箇月分何府(縣)何國何市(郡)何町(村)大字何字何地目何々番地ノ内何坪何等三角(二等水

準)點規標(標杭)敷地借地料

右請求候也

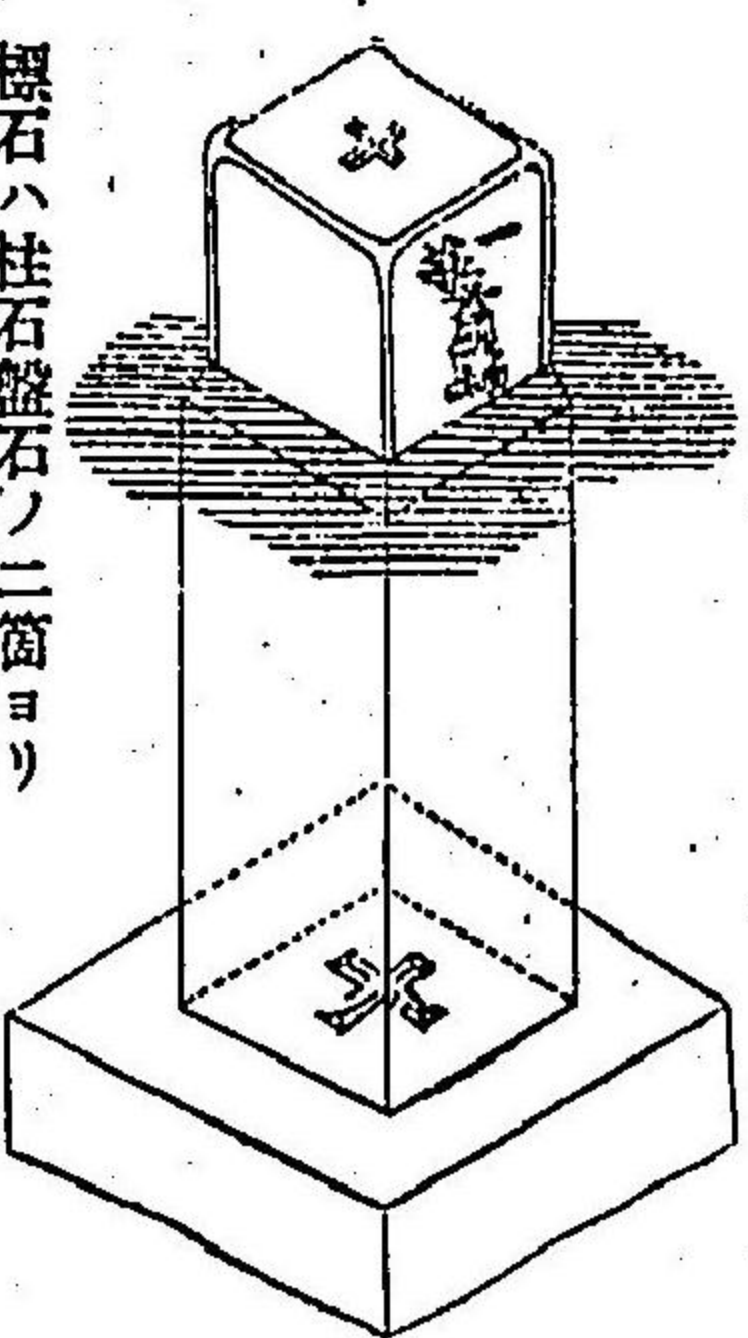
年號月日

陸地測量部

御中

第一圖

(本圖標中ノ文字ハ隸體)



石標點角三等一

標石ハ柱石盤石ノ二箇ヨリ成立スルモノニシテ石質ハ通常花崗石ヲ用ヒ時トシテハ材ヲ用フ但柱石ハ盤石ヲ基礎トシテ現出シ地上ニ出ルコト概テ六寸トス

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地

右所有者(曾祖)氏

名印

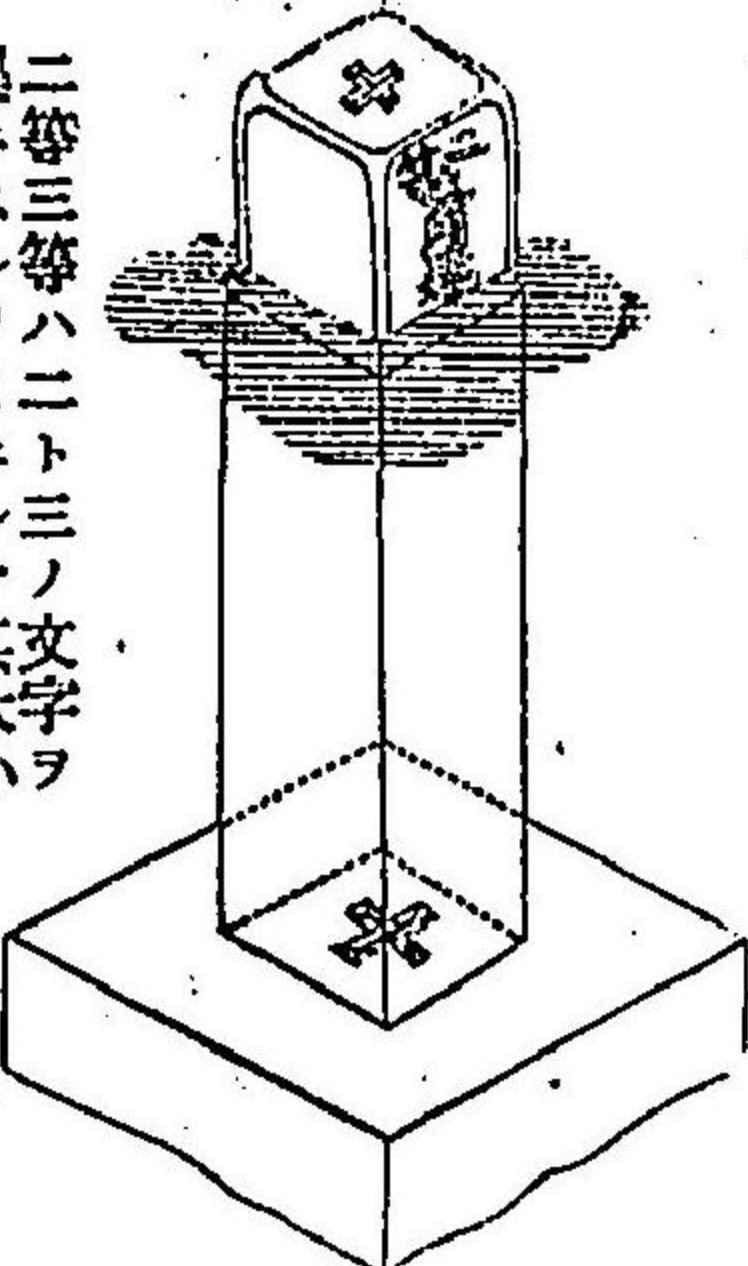
何府(縣)何市(郡)何町(村)大字番地

右所有者(曾祖)氏

名印

第二圖

(本圖標中ノ文字ハ隸體)



石標點角三(等三)等二

二等三等ハ二ト三ノ文字ヲ異ニスルノニシテ其大小ニ異ナルコトナクシテ地上ニ出ルコト概テ五寸トス

石標點準水等一

第三圖

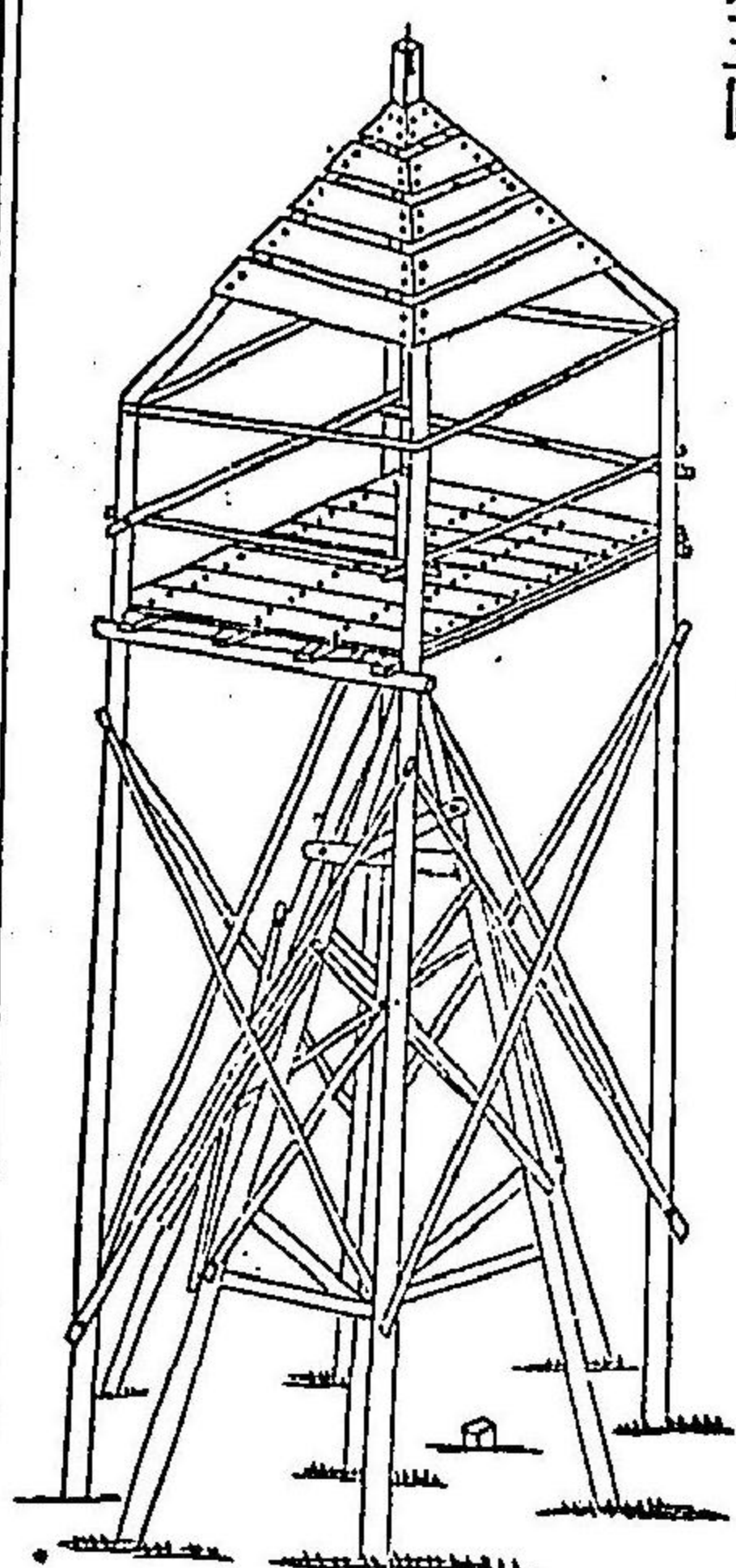
(本圖標中ノ文字ハ隸體)



石質ハ一等三角點標石ニ同シ裏面ニ番號ヲ刻シ地上ニ出ルコト概テ七寸

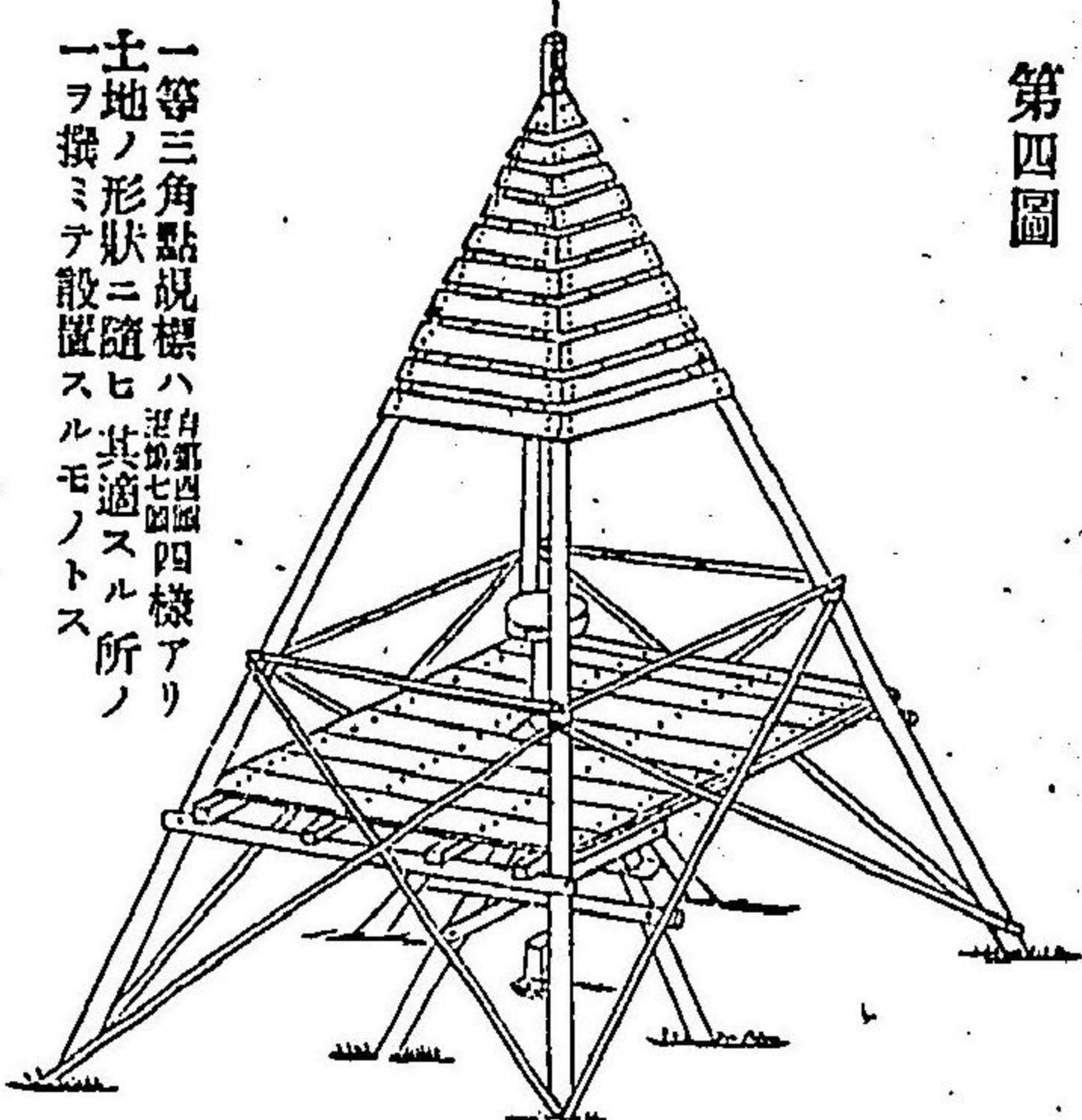
第五圖

標規點角三等一

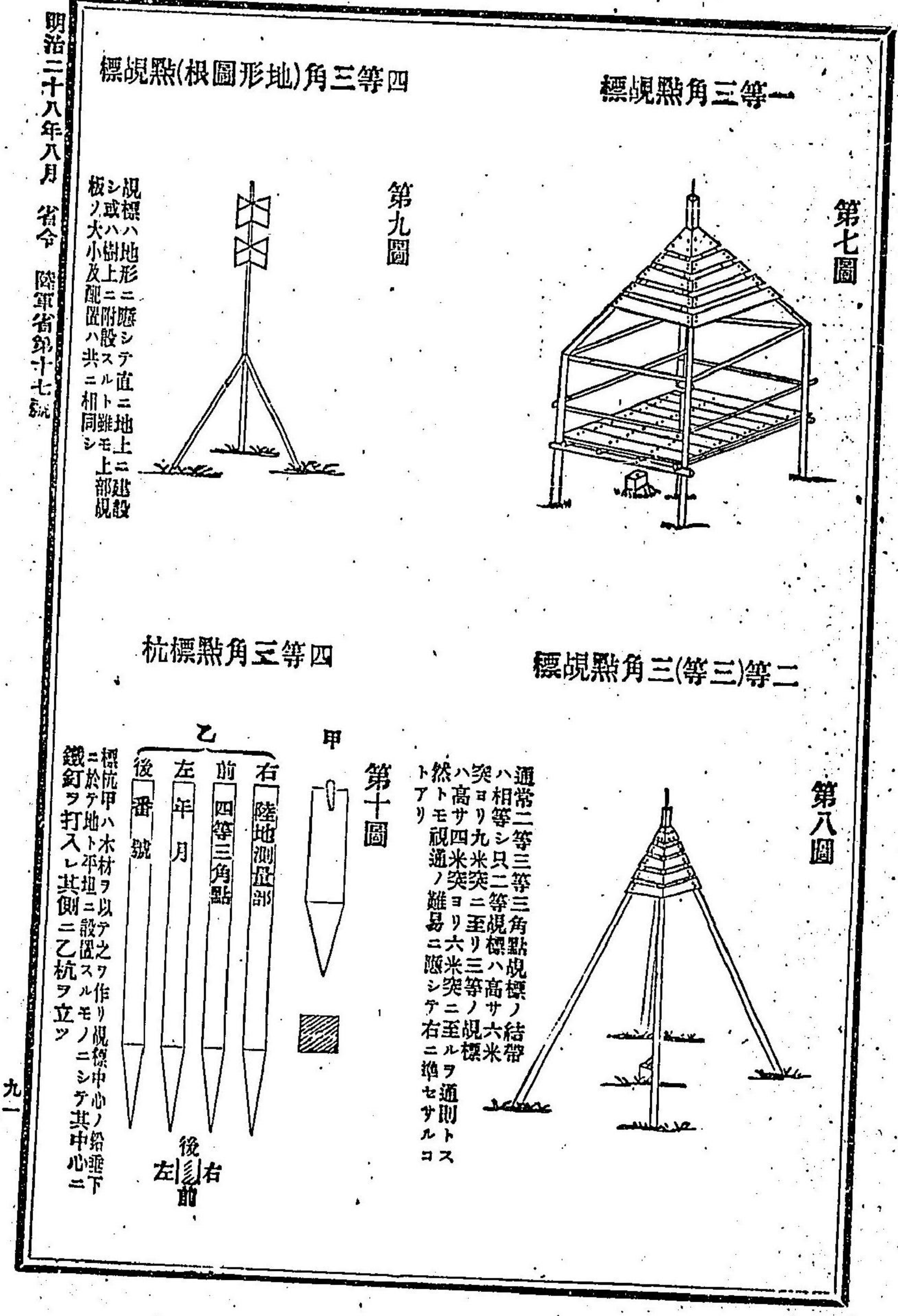
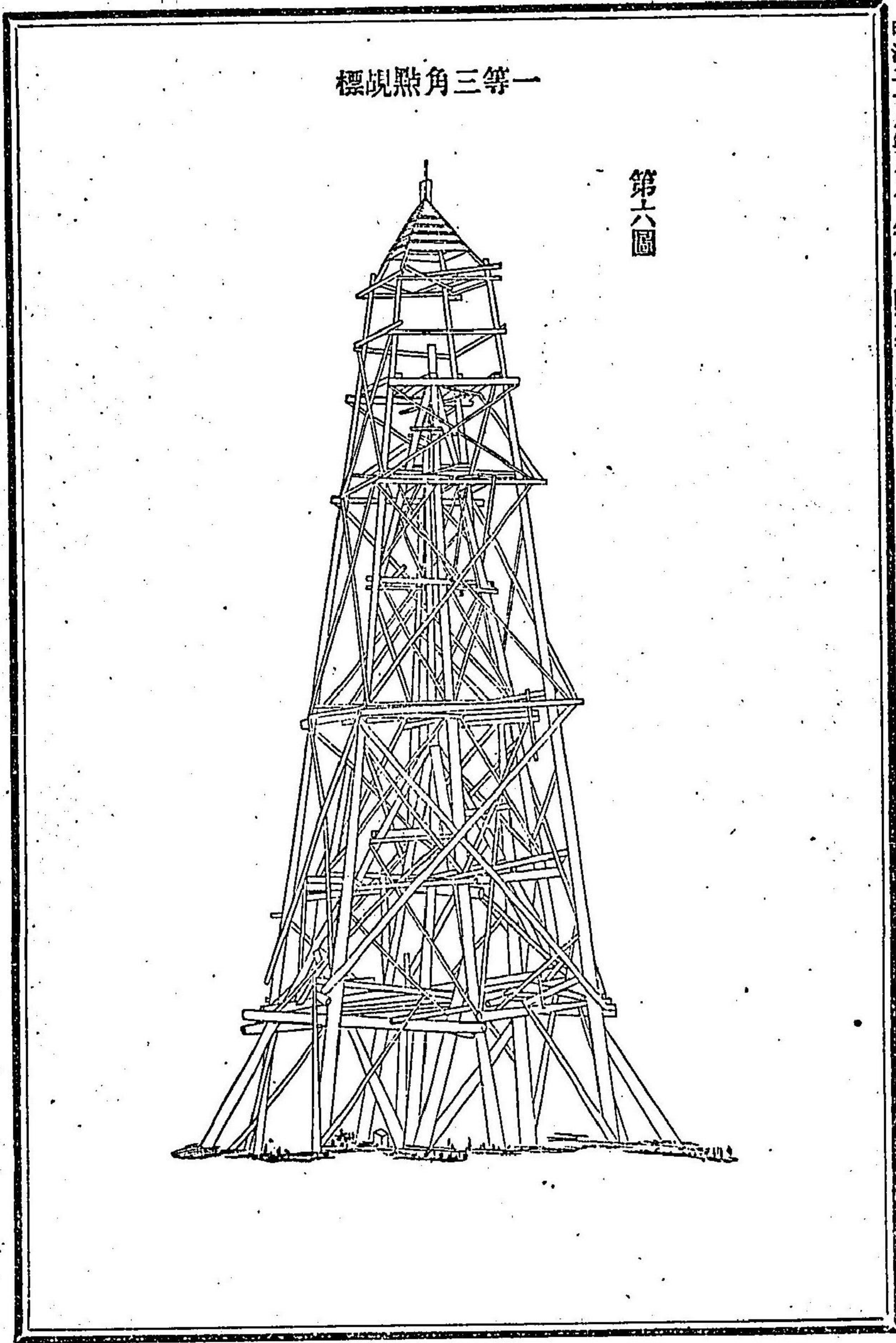


標規點角三等一

第四圖

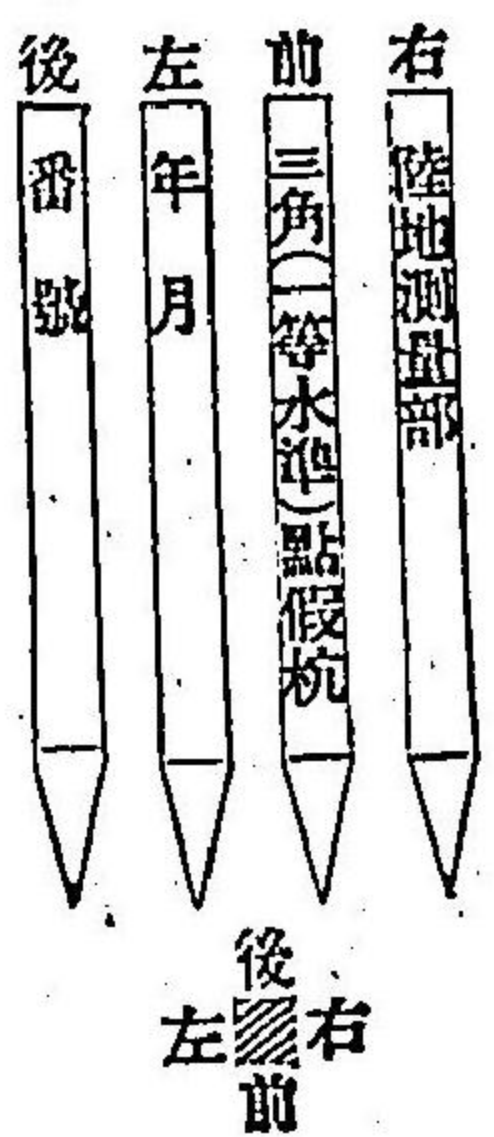


一等三角點規標ハ其頂上ニ四角ノ一土地ノ形状ニ隨ヒ其適スル所ノ一ヲ據ミテ設置スルモノトス



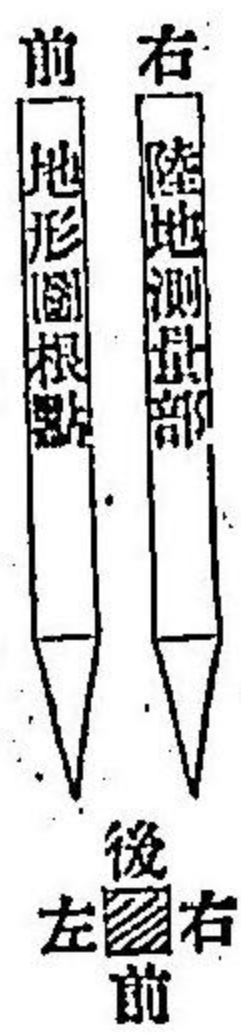
第十一圖

杭假點(準水等一)角三



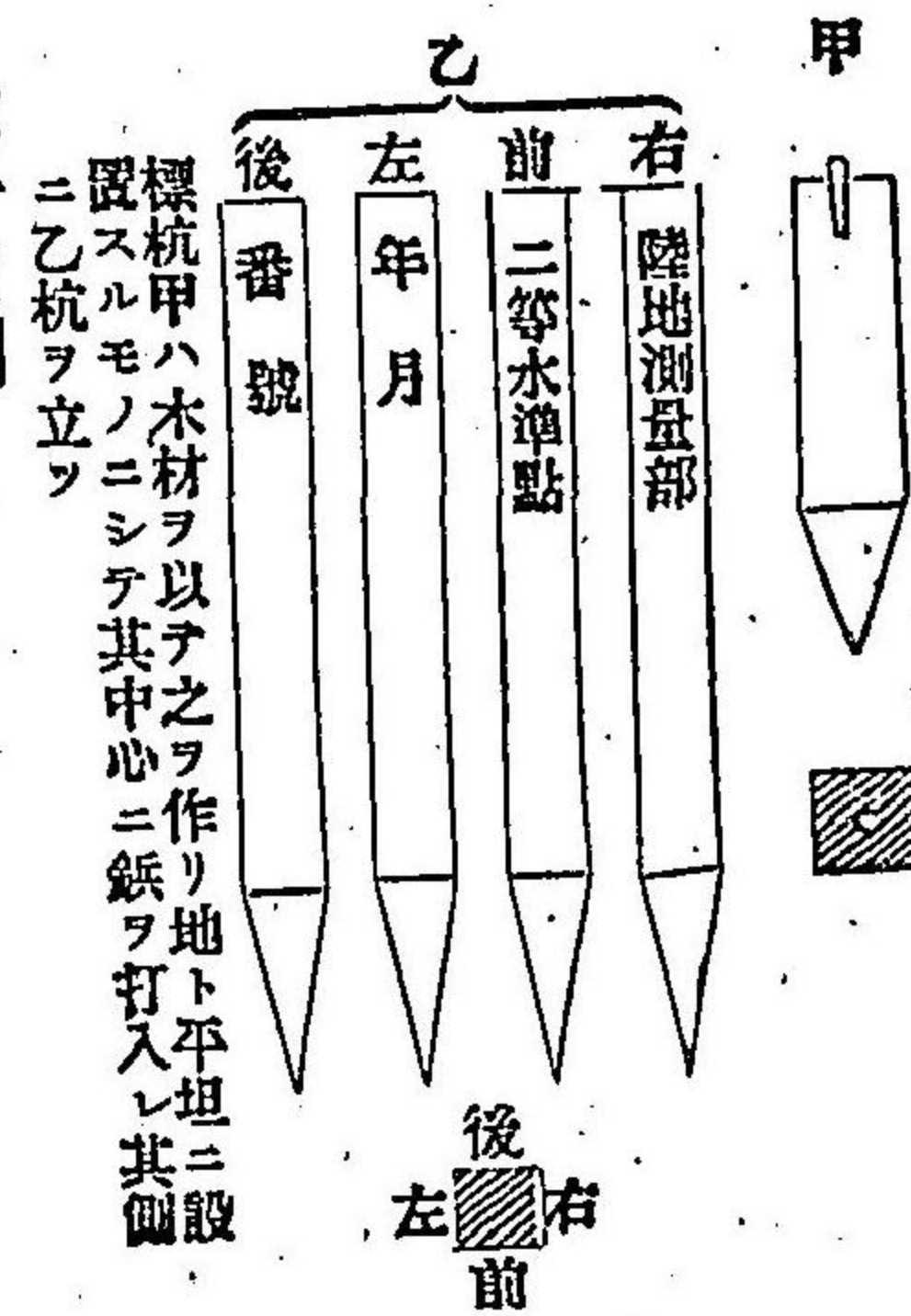
杭假點根圓形地

第十三圖



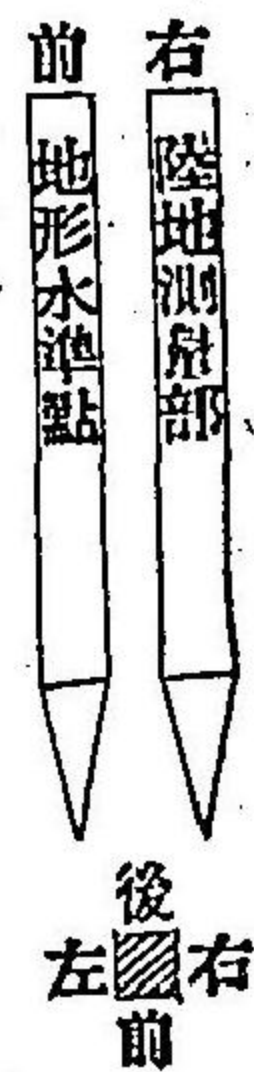
杭假點準水等五

第十二圖



杭假點準水形地

第十四圖



○海軍省令第二號

望樓長望樓手任用試験規則左ノ通定

明治二十八年八月二十四日

望樓長望樓手任用試験規則

第一條 望樓長望樓手ヲ志願スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ願書書式第一號ニ履歷書書式第二號ヲ添ヘ海

海軍大臣侯爵西郷從道

軍省ニ差出スヘシ

第二條 望樓長望樓手ヲ志願スル者ハ任用ノ後滿三箇年以上服役スヘキ者ニアラサレハ出願スルコトヲ得ス

第三條 左ニ掲グル諸項ノ一ニ該ルトキハ望樓長望樓手ノ任用試験ヲ受クルコトヲ得ス

一 年齢二十年未滿ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケ其辨償ヲ終ヘサル者

四 品行不良ノ者

第四條 試験ヲ分チテ身體検査學術試験ノ二トス學術試験ハ身體検査ニ合格シタル者ニアラサレハ行ハス

第五條 學術試験科目ハ左ノ如シ

一望樓長

讀書 漢字交リ文

電信法

一望樓手

讀書 漢字交リ文

電信法

作文 通俗文

船舶信號法

算術 四則ヨリ比例マテ

算術 四則

船舶信號法

第一號書式 (用紙美濃紙ニ折一通)

望樓長(望樓手)採用試験願

姓名

何年何月何日生

何年何月何日生

私儀認極長(望極手)採用試験相受度履歷書相添此致奉願候也

年月日

海軍省 御中

第二號書式 (用紙美濃紙二ツ折一通) 履歷書

本籍

現住所 姓 名 印

何府縣華土族平民 月主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍 姓 名

何年何月何日生 年號月何年何箇月

- 一本籍(國都市町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記スヘシ)
- 一現住地(右同)
- 一修學
- 一職業技藝等
- 一官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事
- 一役罰
- 一身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケス(身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケシト雖モ辨償ヲ完了セリ)
- 一前番相違無之候也

何府縣何國何都市區何町村 市區町村長本籍ノ市 區町村長 姓

名 印

○農商務省令第九號

明治二十三年九月農商務省令第十二號商業會議所條例施行規則左ノ通改正ス

明治二十八年八月二十七日

農商務大臣子爵榎本武揚 商業會議所條例施行規則 第一條 商業會議所設立ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人連署スヘシ

一 會議所ノ名稱 位置

二 設立地ノ區域

三 定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ定數

第二條 設立地ノ區域數市町村ニ互ルトキハ各市町村ニ於テ發起人アルコトヲ要ス

第三條 地方長官會議所設立ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ進達スルトキハ發起人ノ職業、年齡、所得稅納額ノ調査及會議所設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者、被選舉權ヲ有スル者ノ人員調査ヲ添附スヘシ

第四條 發起人會議所設立ノ認可ヲ得タルトキハ其旨ヲ設立地ノ商業者ニ公告シ認可ノ日ヨリ三十日以内ニ初回會員選舉規則及創立費豫算ヲ編製シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第五條 發起人初回會員選舉規則及創立費豫算ノ認可ヲ得タルトキハ認可ノ日ヨリ六十日以内ニ第七條ニ依リ會員選舉ノ施行ヲ請求スヘシ

第六條 發起人會議所初回ノ會議ニ際シ其執行シタル事務ノ報告ヲ爲シ一切ノ書類物件ヲ會議所ニ引繼クヘシ

第七條 會議所ハ前項ノ引繼ヲ受ケタル後六箇月以内ニ創立費決算報告書ヲ農商務大臣ニ進達スヘシ

第八條 會議所ハ初回ノ會議ヲ開キタル日ヨリ三十日以内ニ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第九條 會議所ハ會員ノ選舉ヲ爲ストキハ會員選舉人及被選舉人ノ名簿其他必要ノ書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ選舉ノ施行ヲ請求スヘシ但會議所設立地ノ區域數市町村ニ互ルトキハ會議所ヲ設置スル地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第十條 郡長若クハ市長會議所又ハ發起人ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲ爲シ其選舉ヲ施行セシムヘシ

第九條 郡長若クハ市長會員ノ選舉ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
 一 當選者ニ當選ノ通知ヲ爲シ會社、取引所ニハ通知ヲ爲スト同時ニ其代表人ノ氏名届出ヲ命スヘシ
 二 選舉ニ關スル書類ハ會議所ニ引繼クヘシ
 三 會議所創立ノ場合ニハ選舉ヲ終リタル日ヨリ十五日以内ニ場所日時ヲ定メ會員ヲ召集シテ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ
 第十條 郡市町村長ハ會員選舉人被選舉人名簿ノ調製及會議所經費ノ賦課ニ關シテ必要ナル會員選舉權被選舉權ノ要件、所得稅納額及其他ノ納稅額調査ノ爲メ會議所又ハ發起人ヨリ請求アルトキハ其書類ヲ開示スヘシ
 第十一條 會議所ハ會員、役員ノ就任退任アルトキハ七日以内ニ農商務大臣ニ届出ヘシ特別會員ヲ置キタルトキ亦同シ
 第十二條 會議所ハ經費豫算ノ認可申請書ヲ會計年度二箇月以前ニ進達スヘシ但創立ノ場合ニ於テハ定款認可後二箇月以内ニ進達スヘシ
 第十三條 會議所ハ財産目錄ヲ添ヘ會計年度經過後六箇月以内ニ進達スヘシ
 第十四條 會議所ハ毎月執行シタル事務ノ要領ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ報告スヘシ
 第十五條 會議所第三條第四條及第六條規定ノ期限内ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ具シ其期限内ニ延期ヲ請フコトヲ得
 農商務大臣ニ報告スヘシ
 ○農商務省令第十號
 横濱商業會議所設立地ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ明治二十年三月三勅

令第五號所得稅法第四條ノ第四等以上トス
 明治二十八年八月三十日

農商務大臣子爵榎本武揚

〔參照〕

法律第八十一號商業會議所條例(明治二十三年九月十二日官報)抄録
 第一條 此條例ニ商業者ト稱スルハ左ニ掲ケタル者ヲ謂フ
 一 商法第四條ノ商取引及同第五條第一號第三號第四號第六號ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル者
 二 第一項ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル合資會社株式會社及取引所
 三 第一項ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル合名會社ノ社員合資會社ノ業務擔當社員無限責任社員株式會社ノ取締役及取引所ノ理事長理事
 第五條 會議所設立地ニ於テ第一條第一項ノ營業ヲ爲シ又ハ第一條第三項ノ社員役員トナリ其地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者並會議所設立地ニ於テ營業スル第一條第二項ノ會社及取引所ハ其會議所會員ノ選舉權ヲ有ス
 第六條 會員ノ選舉權ヲ有スル會社及取引所並三箇年以上繼續シテ會員ノ選舉權ヲ有スル年齢滿三十歳以上ノ男子ハ會員ノ被選舉權ヲ有ス
 會社及取引所ヲ代表スヘキ者ハ第一條第三項ニ該當スル其社員役員ニシテ年齢滿三十歳以上ノ男子一人ニ限ル
 勅令第五號所得稅法(明治二十年三月二十三日官報)抄録
 第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ
 等級 稅率
 第四等 所得金壹千圓以上 百分ノ一半

○内務省令第十一號

明治二十五年四月内務省令第四號中衛生試驗所ノ下ヘ「及集治監」ノ四字ヲ追加ス
明治二十八年九月六日

内務大臣子爵野村 靖

〔参照〕

内務省令第四號(明治二十五年四月十三日)抄録
土木監督署衛生試驗所ハ各其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

○内務省令第十二號

米國ニ於テ發行スル新世界新聞第三百七十七號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例
第二十一條ニ依リ自今内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フヘシ
明治二十八年九月二十一日

内務大臣子爵野村 靖

○司法省令第八號

松江地方裁判所管内西郷區裁判所管轄隱岐國穩地郡都万村ニ都万登記所ヲ置キ同郡都万村、津戸
村、那久村、油井村及周吉郡嶋木村ヲ其管轄トス
明治二十八年九月二十一日

司法大臣芳川 顯正

○農商務省令第十一號

明治二十八年四月農商務省令第五號中「東京」ノ下ニ「横濱」ノ二字ヲ追加ス
明治二十八年九月二十四日

農商務大臣子爵榎本武揚

〔参照〕

農商務省令第五號(明治二十八年四月二日)
商業會議所條例第七條ニ依リ會社及取引所ノ會議所會長選舉權被選舉權ニ關スル財産ノ資格ヲ東京及大阪商業會議所設立
地ハ資本金額壹萬圓以上其他ノ商業會議所設立地ハ資本金額壹千圓以上ト定ム

明治二十八年九月 省令 内務省第十一號 第十二號 司法省第八號 農商務省第十一號

○内務省令第十三號
米國ニ於テ發行スル新世界新聞第三百八十三號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ依リ自今内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フヘシ
明治二十八年十月三日
内務大臣子爵野村 靖

○大藏省令第三號
明治二十七年法律第二十五號ニ據リ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例第六條第二項ノ方法ヲ以テ證書額面壹千萬圓ヲ限リ漸次軍事公債證書ヲ發行ス
此公債利子ハ一箇年百分ノ五トス
此公債償還利子仕拂其他ノ取扱ハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ノ規定ニ準據スヘシ
明治二十八年十月四日
大藏大臣子爵渡邊國武

法律第二十五號(明治二十七年十月二十四日官報)
清國及朝鮮國トノ交渉事件ニ關スル軍費支辨ノ爲メ壹億圓ヲ限リ一箇年六米以下ノ利子ヲ以テ漸次公債ヲ募集シ若クハ借入金ヲ爲スコトヲ得
但募集借入ノ方法規約償還年限其他必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム
勅令第六十六號整理公債條例(明治十九年十月十六日抄録)
第六條第二項
大藏大臣ハ前項ノ手續ニ據ラス市場ノ時價ニ準シ整理公債證書ノ價格ヲ定メ臨時之ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルコトヲ得但發行シタル證書ノ金額及價格ハ大藏大臣其發行ノ翌日之ヲ告示スヘシ

○大藏省令第四號
本年大藏省令第三號ニ依リ發行スル軍事公債證書ノ取扱方ハ明治十九年大藏省令第二十號整理公債取扱順序ノ規定ニ準據ス
明治二十八年十月四日
大藏大臣子爵渡邊國武

○逓信省令第六號
明治二十一年十一月十一日 逓信省令第四號鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱細則左ノ通改正シ來十一月一日ヨリ施行ス
明治二十八年十月五日
逓信大臣子爵渡邊國武

明治二十八年十月 省令 内務省第十三號 大藏省第三號 第四號 逓信省第六號

鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱細則

- 第一條 鐵道所屬ノ電信電話線ヲ以テ通信スル公衆ノ電報ハ特ニ規定スルモノ、外總テ電信條例及電信取扱規則ニ依ルヘシ
- 第二條 電信局設置アル地ノ鐵道電信取扱所ニ於テハ留置トナス電報ノ外著信ヲ取扱ハス
- 第三條 電信局設置ナキ地ノ鐵道電信取扱所ニ於テハ區域ヲ限リ配達ヲナシ其區域外ニ宛タル電報ハ郵便配達トナスヘシ但特ニ指定シタル鐵道電信取扱所ニ於テハ別使配達又ハ解船配達ヲナスヘシ
- 第四條 公衆ノ電報ヲ取扱フ鐵道電信取扱所ノ位置名稱及通信取扱時限ハ之ヲ告示スヘシ

陸軍省令第十八號

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通定

陸軍大臣侯爵大山 巖

- 第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ就職ニ就キタル年居住地最寄ノ大隊區徵兵署、警備隊區徵兵署又ハ検査所ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後就職トナリタル者ハ翌年回トス
- 第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先ダテ之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ就職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ
- 第三條 大隊區司令官警備隊區司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ其ノ名簿ヲ旅團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ府縣知事ニ通知スヘシ
- 第四條 旅團長ハ其ノ合格者ニ附録第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ呈シ其ノ他ハ尋常徵兵ト同一ノ處分ヲ爲スヘシ但沖繩縣在籍者ニシテ徵集ニ適セサルモノハ尋常徵兵ト同一ノ處分ヲ爲スノ限ニアラス
- 第五條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

第六條

- 一 北海道及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依ルヘシ
- 二 北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ就職トナルヘキ年豫メ第一條ニ準シ名簿ヲ作り札幌大隊區司令官又ハ沖繩分遣隊ニ送付スヘシ
- 三 札幌大隊區司令官及沖繩分遣隊長ハ三月一日迄ニ醫官ヲシテ身體検査ヲ爲サシメ其ノ名簿ヲ札幌大隊區司令官ヨリハ屯田兵司令官沖繩分遣隊長ヨリハ鹿兒島大隊區司令官ニ送付シ
- 第七條 身體検査ノ後就職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令官又ハ屯田兵司令官ニ通報スヘシ但北海道及沖繩縣ニ在テハ検査後入營期日迄ニ就職ヲ命セサル者アルトキ亦同シ
- 第八條 身體検査ヲ受ケタル者沖繩縣在籍ハ其ノ年ノ五月三十一日迄ニ合格若クハ其ノ受ケシ處分ヲ本籍所管ノ島司郡市區長ニ届出ヘシ
- 第九條 條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長ハ其ノ隊長ニ在テ該司令官ヨリ本籍所管ノ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通報シ大隊區司令官警備隊區司令官ハ其ノ名簿ヲ調製シ且道廳府縣廳ニ通報スヘシ
- 第十條 國民軍幹部適任證書ハ附録第二様式ニ準シ調製スヘシ
- 第十一條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其證書ヲ返還セシム
- 第十二條 前諸條ニ掲グルモノ、外ハ師團長屯田兵司令官及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定ム
- 條例第八條ニ依リ第二師管ノ步兵隊ニ編入スヘキ者ノ取扱ハ屯田兵司令官ヨリ第二師團長ニ協議シ之ヲ定メ陸軍大臣ニ報告シ道廳長官ニ通知スヘシ

明治二十八年十月 省令 陸軍省第十八號

第一様式 用紙厚紙

<p>陸軍六週間現役兵合格證書</p> <p>府縣(市町) 某長次男(弟) 氏 名</p> <p>右検査合格ニ付此證書ヲ付與ス</p> <p>年 月 日</p> <p>職(爵)氏 名 印</p> <p>凡曲尺六寸</p>		<p>心得</p> <p>一 此證書ヲ所持スル者ノ入營期日ハ六月一日トス但疾病其他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集セラル、モノトス</p> <p>二 戦時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ハ延ハスコトアルヘシ</p> <p>三</p>
<p>國民軍幹部適任證書</p> <p>府縣族籍 陸軍六週間現役兵氏 名</p> <p>國民軍幹部適任ノ者ト</p> <p>確認ス</p> <p>年 月 日</p> <p>職官位勳氏 名 印</p> <p>五寸六分</p>		<p>第二様式 用紙鳥ノ子紙</p> <p>七寸八分</p>

○海軍省令第三號

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ受ケント欲スルモノハ其願書ニ海軍醫官又ハ地方醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ最寄鎮守府病院ニ願出ヘシ

○陸軍省令第十九號

臨時臺灣電信建設部ニ於テ購入スル海底電信線供給ノ競争ニ加ハラントスル者ノ資格ニ就テハ明治二十七年陸軍省令第四號ノ規定ニ準據ス但擔當技術者ニ係ル事項ハ此ノ限ニアラス

○陸軍省令第二十號

今回ノ戰役ニ従事シ公務ノ爲メ死歿シ又ハ傷瀆ヲ受ケ疾病ニ罹リタル者ニ對シテ特別賜金取扱ノ方法左ノ通定ム

明治二十八年十月二十四日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

第一條 陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ今回ノ戰役ニ従事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタル者ノ遺族及公務ニ依リ傷瀆ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ廢疾不具トナリタル者等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタル者又ハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ扶助料及手當金ヲ受ケタル者ニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此ノ規程ニ依ル

明治二十八年十月 省令 海軍省第三號 陸軍省第十九號 第二十號

條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治二十七年勅令第六十四號手當金給與ノ辭令書ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキ者ニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スル者ニハ該手當金ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書ヲ以テ交付シ五拾圓未満ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルトキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ

第六條 軍事公債證書ノ價格ハ總テ額面ヲ以テ算ス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ陸軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限りニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキ者死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戶籍調書ヲ添ヘ通帳記名ノ變更ヲ陸軍省ニ願出ツヘシ

第九條 此ノ規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル後傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモノヲ給スルコトナシ

第十條 第三條第四條ノ者ニシテ已ニ恩給證書扶助料證書又ハ手當金等交付又ハ支給シタル者ハ各書類ニ依リ調査シ恩給證書扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付セシ地方廳及手當金ノ辭令書ヲ交付セシ師團司令部又ハ屯田兵司令部ヲ經テ支給方取計フモノトス

〔参照〕

明治二十七年勅令第六十四號ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍軍員、軍艦乗組員、軍用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其他陸海軍備人等ニシテ公務ノタメ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルトキ一時限手當金給與ノ件ナリ

○陸軍省令第二十一號

明治二十七年勅令第六十四號ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍軍員、軍艦乗組員、軍用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其他陸海軍備人等ニシテ公務ノタメ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルトキ一時限手當金給與ノ件ナリ

明治二十八年十月二十四日 陸軍大臣 侯爵 大山 巖

第一條 明治二十七年勅令第六十四號ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸海軍軍員、軍艦乗組員、軍用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其他陸海軍備人等ニシテ公務ノタメ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルトキ一時限手當金給與ノ件ナリ

第二條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ陸軍省ニ願出ツヘシ但シ地方廳ヲ經テ交付シタル者ニ在リテハ其廳ヲ經由シテ差出スヘシ

第三條 前條交換請求ハ受領ノ當日限りトス但其價格ハ額面ニ依ル

○海軍省令第四號

戰死者等ノ遺族及負傷者ニ對スル特別賜金支給ノ方法左ノ通定ム

明治二十八年十月二十四日 海軍大臣 侯爵 西郷 從道

第一條 海軍軍人軍屬及雇員備人等ニシテ今回ノ戰役ニ從事シ公務ノ爲メ又ハ之ニ基因シ死歿シタル者ノ遺族及公務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ廢疾不具トナリタル者等ニシテ軍人恩給法官吏恩給法同扶助法ニ依リ恩給及扶助料ヲ受ケタル者又ハ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受ケタル者ニ給スヘキ特別賜金支給ノ方法ハ此ノ規定ニ依ル

第二條 前條ノ特別賜金ノ給與及支給額ハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六

條ノ恩給證書官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書及明治二十七年勅令第六十四號手當金給與ノ金額ニ依リ定ムルモノトス

第三條 軍人軍屬ニシテ特別賜金ヲ支給スヘキ者ニハ軍人恩給法施行規則第五條及官吏恩給法施行規則第六條ノ恩給證書若クハ官吏遺族扶助法施行規則第八條ノ扶助料證書又ハ辭令書ヲ交付スルト同時支給スルモノトス

第四條 明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ支給スル者ニハ該手當金ヲ支給スルト同時支給スルモノトス

第五條 特別賜金ハ軍事公債證書額面ヲ以テ交付シ五拾圓未満ノ端數ニ對シテハ其金額ヲ登記シタル郵便貯金通帳ヲ以テ下付ス受領人ニ於テ既ニ郵便貯金通帳ヲ所持スルトキハ一通帳ニ轉記請求ノ手續ヲナスヘシ

第六條 特別賜金ハ總テ所管地方廳ヲ經テ支給ス所管地方廳ハ適宜之ヲ本人ニ交付シ其受領書及調印シタル貯金預入申込書ヲ海軍省ニ送付スルモノトス

第七條 受領人受領ノ軍事公債證書ヲ現金ニ換ヘント欲スルトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ海軍省ニ送付スヘシ但交換請求ハ受領ノ當日限りニシテ價格ハ額面ニ依ル

第八條 特別賜金ヲ受領スヘキ者死歿シ若クハ受領ノ資格ヲ失フタルトキハ正當ノ繼承者ヨリ市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添ヘ通帳記名ノ變更ヲ海軍省ニ願出ツヘシ

第九條 此ノ規定ニ依リ特別賜金ヲ受ケタル後傷痍疾病再發若クハ増進ノ故ヲ以テ再ヒ請求スルモ之ヲ給スルコトナシ

第十條 第三條第四條ノ者ニシテ已ニ恩給證書扶助料證書及辭令書又ハ手當金等交付又ハ支給シタル者ハ各書類ニ依リ之ヲ調査シ支給方取計フモノトス

○海軍省令第五號

明治二十八年ノ戰役ニ關シ明治二十八年勅令第一百五號ニ依リ海軍所屬員ニ賜與セラルヘキ一時賜金ハ海軍省ニ於テ交付ノ手續ヲナスヘシ但其金額ハ明治二十八年勅令第三百二十七號ニ依リ五拾圓未満ノ端數ヲ除クノ外軍事公債證書ヲ以テ交付シタル地方ニ在ル受領者ニ於テ若シ現金ト交換ヲ望ムトキハ該軍事公債證書ニ交換請求書ヲ添ヘ其受領ノ當日限り海軍省ニ願出ツ

明治二十八年十月二十九日

海軍大臣 侯爵西郷從道

〔參照〕

勅令第一百五號(明治二十八年七月二十六日官報)
戰役若クハ事變ニ際シ功勞アリテ勳章ヲ授ケルモノ年金ヲ賜ハラサル者又ハ勳章ヲ授ケサル者ニハ一時限り金圓ヲ賜與ス

勅令第三百二十七號(明治二十八年十月三日官報)
明治二十八年ノ戰役ニ關シ一時賜金ハ受給者ノ便宜ヲ圖リ軍事公債證書額面ヲ以テ交付スルコトヲ得其ノ公債證書ノ購入ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム但五拾圓未満ノ端數ハ此ノ限ニ在ラス

○內務省令第十四號

米國ニ於テ發行スル桑港時事第二百十號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ依リ自今內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フ可シ

明治二十八年十月三十日

內務大臣 子爵野村 靖

○內務省令第十五號

米國ニ於テ發行スル新世界新聞第四百七號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ依リ自今內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フ可シ

明治二十八年十月三十一日

內務大臣 子爵野村 靖

○陸軍省令第二十二號
陸軍准士官下士官採用細則左ノ通定ム
但明治二十一年陸軍省令第二號陸軍下士官採用細則ヲ廢止ス
明治二十八年十月三十一日
陸軍大臣 侯爵 大山 巖

陸軍准士官下士官採用細則

第一條 本則ハ士官採用規則ヲ云フ以下條ノ第一條ニ因リ文官奉職ヲ請願セント欲スル者ニシテ
第一項ニ該當スル者ハ第一書式第二項及第三項ニ該當スル者ハ第二書式及第三書式ニ據ルヘシ
第二書式 料紙美濃紙

某職(公務上ノ傷疾(疾病)ニ因リ過ル年月日現役ヲ退キ(免官相成)候ニ付陸軍准士官下士官採用規則ニ因リ文官奉職仕度
候間御採用相成度別紙履歴書ニ出申ス(退官)候間御採用相成度別紙履歴書ニ出申ス(退官)候間御採用相成度別紙履歴書並
簡證明書寫相添此段奉願候也

年月日

道廳(府)(縣)(國郡)(區)(町)(村)族籍
退役(豫備)(後備)(元何官)

名印

年號月日生
年號月何年何箇月

陸軍大臣爵姓名殿

(豫備後備役ノ者ニ在テハ宛名ヲ所
管長官トナシ左ノ奥書ヲ要セス)

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日

道廳(府)(縣)(國郡)(區)(町)(村)長

名印

年號月日生
年號月何年何箇月

第一書式

某 儀
來ル(過ル)年月日退職(現役滿期)相成候ニ付陸軍准士官下士官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歴書並
ニ檢附證明書寫相添此段奉願候也

年月日

隊號(所管)(豫備)(後備)
官 姓

名印

年號月日生
年號月何年何箇月

(所管長官)

職官姓名殿

第三書式

過ル年月日退役(現役滿期免官)相成候ニ付陸軍准士官下士官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歴書並
ニ檢附證明書寫相添此段奉願候也

年月日

道廳(府)(縣)(國郡)(區)(町)(村)族籍
退役(元何官)

名印

年號月日生
年號月何年何箇月

陸軍大臣爵姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日

道廳(府)(縣)(國郡)(區)(町)(村)長

名印

年號月日生
年號月何年何箇月

第二條 願書及履歴書ハ楷書又ハ行書ヲ以テ自ラ之ヲ書スヘシ

第三條 本則第五條ニ因リ教官技術官ヲラシト望ム者及某官廳ニ限リ奉職センコトヲ望ム者
ハ其志願ノ應名ヲ願書中ニ記載シ又教官技術官志願ノ者ニ在テハ其習得セシ學術ヲ履歴書中ニ
記載シテ差出スヘシ

但教官技術官タルノ志願ヲナシ合格セサル者ハ更ニ普通判任官タルヲ請願スルコトヲ得
第四條 本則第一條ノ資格ヲ有スト雖トモ服役以來左ノ項目ニ觸ル者ハ請願スルヲ得ス又既ニ

請願ノ者ハ其請願無效ニ屬ス

一 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

一 賭博犯ニ付懲罰ニ處セラレタル者

第五條 本則第一條ニ因リ請願スル者アルトキハ所管長官又ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其請願書類ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 本則第五條ニ因リ各官廳ニ於テ試験ヲ爲セントキハ其試験ノ科目及ヒ合格不合格ノ旨ヲ直ニ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第七條 各官廳ニ於テ請願者ヲ採用セシ上ハ直ニ其官等ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第八條 各官廳ニ於テ請願者ヲ採用シ他日非職ヲ命シ又ハ本官ヲ免シタルトキハ其理由ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第九條 教官技術官ヲランコトヲ望ム者受験ノ爲メ官廳ニ往復スル旅費ハ總テ自辨タルヘシ

第十條 本則第十條ニ因リ其請願ヲ取消サント欲スルトキ又ハ請願者ノ身上ニ異動ヲ生シ或ハ轉居轉籍若クハ處刑等ニテ履歷上改正ヲ要スルコトアルトキハ其旨ヲ詳記シ最初願出ノ手續ニ因リ届出ツヘシ

○陸軍省令第二十二號

臨時臺灣燈塔建設部ニ於テ購入スル鐵造燈塔供給ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ掲グル事項ノ外左ノ資格ヲ備フル者タルヘシ

明治二十八年十一月一日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

第一條 一箇年ニ付直接國稅七圓五拾錢以上ヲ二箇年間引續キ納ムル者

合名會社ニ在テハ其社員ノ直接國稅ヲ併算ス

第二條 前條ノ外左ノ土地ヲ供用シ及工作機械ヲ有スル者

一 長六十尺幅三十尺高五十尺ノ建物ヲ容ル、ニ支障ナキ空地ヲ工場ノ構内若クハ其近傍ニ於テ供用シ得ル者但三十尺平方高五十尺ノ空地ニ箇所ヲ供用シ得ル者ニテモ妨ケナシ

二 一回一噸以上ノ銑鐵ヲ鑄解シ得ル鑄爐ヲ工場内ニ有スル者

三 長十四尺ノ鐵柱ヲ削リ得ル旋盤ノ裝置ヲ工場内ニ有スル者

四 幅五尺ノ鐵板ヲ曲ケ得ル板曲機械ヲ工場内ニ裝置セル者

〔参照〕

勅令第六十號會計規則(明治二十二年五月一日官報)抄錄
第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得
工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

○大藏省令第五號

新ニ勳章年金證書ヲ授賜セラレタル者ハ年金ノ支給ヲ受クヘキ道廳府縣ヘ其居所ヲ届出ヘシ
年金ヲ受領スルカ爲メ代理人ヲ設ケタルトキハ前項ニ準シ其代理人ノ居所ヲ届出ヘシ

明治二十八年十一月九日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

○司法省令第九號

裁判所構成法第三十一條一項ニ依リ秋田地方裁判所管内大館區裁判所ニ該地方裁判所支部ヲ置キ大館花輪ノ各區裁判所管内ノ事件ニシテ地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル民事刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム但豫審ヲ要スルモノハ此限ニ在ラス
本令ハ來ル十二月一日ヨリ施行ス
明治二十八年十一月十四日
司法大臣 芳川 顯正

○陸軍省令第二十四號

明治二十八年陸軍省令第十六號陸軍戰利品整理規程第三條第一項中「軍隊」ノ下ニ「學校」ノ二字ヲ追加ス
明治二十八年十一月十六日
陸軍大臣 侯爵 大山 巖

〔參照〕

陸軍省令第十六號陸軍戰利品整理規程(明治二十八年八月十日)抄録
第三條第一項
兵備品ハ其所用ニ應ジテ陸軍官衙ノ保管ニ屬シ通商物品ハ陸軍其他ノ官衙ニ於テ使用ノ必要アルモノヲ除ク外ハ紀念ノ爲メ之ヲ帝室ニ納メ若クハ軍隊其他公衆ノ雜覽ニ供スル陳列場或ハ神社佛閣ニ分與シテ永久之ヲ保存セシメ又以上ノ項目ニ該當セサルモノハ之ヲ賣却セシム

○陸軍省令第二十五號

明治二十五年陸軍省令第五號陸軍召集旅費支出規程中左ノ通改正ス
明治二十八年十一月二十二日
陸軍大臣 侯爵 大山 巖
第一條第一項中「五月」ヲ「四月」ニ及豫備徵員ヲ補充兵及第一國民兵ニ三月」ヲ「二月」ニ改ム
第二條中「三月三十一日」ヲ「二月二十八日」ニ改ム
第三條第一項中「四月」ヲ「三月」ニ同條第二項中「五月」ヲ「四月」ニ「四月三十日」ヲ「三月三十一日」ニ改ム

第八條第二項中「豫備徵員」ヲ「補充兵第一國民兵」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ
但補充兵及第一國民兵ノ旅費額ハ豫備後備ノ軍人ニ同シ
第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第十二條 本規程中師團長師團司令部ハ第七師管ニ在テハ屯田兵司令官屯田兵司令部ニ適用ス
附錄第二様式「近衛師團充員召集ノ區畫」ノ下ニ左ノ區畫ヲ設ク

第一國民兵召集
人
員
旅
費

同欄外第一項中「豫備徵員」ヲ「補充兵」ニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第五號陸軍召集旅費支出規程(明治二十五年三月二十九日)抄録
第一條第一項
陸軍臨時召集旅費ハ島司郡長以下市町村長以下ニ於テ毎年五月一日十二月一日ニ現在ス可キ其管内在郷ノ陸軍軍人及豫備徵員ヲ豫定シ之ニ要スル召集旅費ヲ計算シ臨時召集旅費概算表ヲ作り第一期ハ三月十五日第二期ハ十月十五日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ發送ス可シ
第二條 大隊區司令部及警備隊司令部ハ前條ノ概算表ヲ師團司令部ニ差出シ師團司令部ニ於テハ其金額ヲ調査シ之ヲ一表ニ附録ニ取纏メ毎年三月三十一日及十月三十一日迄ニ陸軍省ニ發送ス可シ
第三條 陸軍省ハ毎年二月十四日陸軍臨時召集旅費概算表ヲ作り大藏省ニ送附シ又當該仕拂命令官ニ下付ス
第一條 概算表ハ五月一日ヨリ十一月三十日迄第二期概算表ハ十二月一日ヨリ翌年四月三十日迄有教ノモノトス
第八條第二項
島司郡長若クハ書記及收税署長前條ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ出納官吏ノ責任ヲ以テ其管内召集ニ應ス可キ在郷軍人並ニ豫備徵員ニ對シ各自召集地ニ到ル定期ノ旅費額ヲ支給ス可シ

○陸軍省令第二十六號

臨時廣島軍用水道布設部長職務規程左ノ通定ム
明治二十八年十一月二十七日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

臨時廣島軍用水道布設部長職務規程

第一條 臨時廣島軍用水道布設部長ハ部内ノ事務ヲ整理シ及部下ノ職員ヲ監督ス
第二條 臨時廣島軍用水道布設部長ハ事務官以下ニ職務ヲ課シ又ハ事務分掌規程ヲ設クルコトヲ得

第三條 臨時廣島軍用水道布設部長ハ事業ノ必要ニ應シ事務官以下ヲ差遣シ又ハ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第四條 臨時廣島軍用水道布設部長ハ其名義ヲ以テ部外ノ官衙ト交渉シ又ハ其專行ニ關スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

第五條 臨時廣島軍用水道布設部長ハ本事業ニ關シ重大ノ事件ヲ除ク外殊ニ委任ノ條項其他輕易ノ事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第六條 臨時廣島軍用水道布設部副部長ハ部長ノ委任ヲ受ケ成規定例アルモノハ部長ニ代リテ之ヲ處理ス

○陸軍省令第二十七號

陸軍補充兵召集規則左ノ通定ム

明治二十八年十一月二十八日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

陸軍補充兵召集規則

第一章 總則

第一條 戰時若クハ事變ニ際シ又ハ平時ニ於テ勤務演習簡閱點呼等ノ爲メ召集スルノ方法及其ノ解散ノ取扱ハ本則中特ニ規定セルモノノ外豫備後備兵召集及解散ノ例ニ依ル

第二條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルハ其ノ服役ノ初年ニ於テスルヲ例トス

第三條 本則ニ據リ召集ニ應スル者ノ旅費ハ陸軍召集旅費支出規程第八條ニ定ムル出納官吏ニ就

キ受領スヘシ

第二章 戰時若クハ事變ニ於ケル召集

第四條 第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ二十四時以内ニ旅費ヲ受領シ其ノ時間内ニ出發シ召集地參著ノ上ハ大隊區司令官（警備區ニ在テハ警備司令官以下同シ）又ハ司令部出張員ニ届出ツヘシ但正當ノ事故ニテ二十四時ヲ經過シタルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

召集途中一日ノ行程ハ汽車路ハ二百哩海路ハ百海里陸路ハ十二里詰ヲ以テ最下限トス

第五條 近衛師團ノ召集ニ應スヘキ第一補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ近衛兵集合地ニ參著シ大隊區司令官又ハ司令部出張員ニ届出ツヘシ

第六條 第二補充兵ヲ召集スルニハ郡吏員ヲシテ召集地又ハ近衛兵集合地迄引率セシムルモノトス

第七條 第二補充兵召集令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其ノ場所ニ參著シ前條ノ引率員ニ届出ツヘシ

第八條 補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ召集ニ難キトキハ本人或ハ戸主若クハ其ノ家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長ノ與書證印ヲ以テ監視區長ニ届出ツヘシ但疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ者ハ憲兵或ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ

第九條 召集ニ應スヘキ補充兵前條ノ事故止ミタルトキハ二十四時間以内ニ本人或ハ戸主若クハ其ノ家族ヨリ町村長ヲ經テ監視區長ニ届出ツヘシ

第十條 第八條第九條ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三章 平時ニ於ケル召集

第十一條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルニハ先ツ大隊區司令部所在地若クハ便宜ノ地ニ集合

ハ大隊區司令部員若クハ其ノ他ノ下士兵卒ヲシテ召集地ニ引率セシムルモトス但召集員五人未滿ナルトキハ單行セシム

第十二條 教育ノ爲メ第一補充兵ヲ召集スルトキハ師團長近衛師團長ヲ除ク其ノ召集期日及日數ヲ地方長官ニ通知シ大隊區司令官ニ達スヘシ

第十三條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十四條 大隊區司令官第十二條ノ違フ受ケタルトキハ集合地及集合期日ヲ郡市長東京京都大阪ハ區島司ニ通知シ郡市長島司ハ町村長戸長ヲ經テ之ヲ本人ニ達スヘシ

第十五條 第一補充兵教育ノ爲メ召集ノ違フ受ケタルトキハ旅費ヲ受領シ指定ノ期日ニ其ノ場所ニ參著シ第十一條ノ引率員ニ届出ツヘシ

第十六條 第一補充兵演習令狀ヲ領收シタルトキハ旅費ヲ受領シ其ノ令狀ニ記載スル期日ニ其ノ場所ニ參著シ大隊區司令官又ハ同司令部出張員ニ届出ツヘシ

第十七條 第一補充兵點呼令狀ヲ領收シタルトキハ其ノ令狀ニ記載スル期日ニ其ノ場所ニ參集シ監視區長ニ届出ツヘシ但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費ハ自辨トス

第十八條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ召集ニ應ジ難キトキハ本人或ハ戸主若クハ其ノ家族ヨリ召集期日迄ニ點呼ノトキハ其ノ當日第八條ノ例ニ依リ監視區長ニ届出ツヘシ

前項ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條 第一補充兵疾病其ノ他ノ事故ニ由リ第十四條ノ召集ニ應セサル者ハ翌年之ヲ召集ス

第四章 雜則

第二十條 第二補充兵召集令狀裏面ノ記載方ハ陸軍召集條例第一樣式其ノ二裏面ノ例ニ依ル

第二十一條 戰時若クハ事變ニ際シ近衛師團ニ召集スヘキ補充兵ハ町村長豫メ之ヲ本人ニ告知ス

第二十二條 本則施行ニ關スル細則ハ師團司令部及地方廳ニ於テ規定スヘシ

附則

第二十三條 明治二十八年徵募ノ第一補充兵ニ限り第二條ヲ適用セス

○陸軍省令第二十八號

國民兵召集規則中左ノ通改正ス

明治二十八年十一月二十八日

第十九條 第一種國民兵居住地ヨリ集合地迄ノ旅費ハ陸軍召集旅費支出規程ニ依リ支給ス但平時豫メ計畫シ置ク所ノ要員ニ加ヘサルモノニ係ル旅費ハ第二項ノ例ニ依ル

第二第三第四種國民兵居住地ヨリ集合地迄ノ旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ニ依リ陸軍召集旅費支出規程ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏之ヲ應召員ニ交付ス其ノ集合地ヨリ召集地迄ノ旅費及檢査不合格者ノ歸郷旅費ハ大隊區司令部ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏之ヲ本人ニ交付ス

〔參照〕

陸軍省令第二號國民兵召集規則(明治二十八年二月一日)抄錄

第十九條 國民兵召集旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ニ依リ居住地ヨリ集合地迄ノ概算額ハ之ヲ陸軍臨時召集旅費支出規程ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送付シ該出納官吏ハ適宜之ヲ應召員ニ交付スヘシ其集合地ヨリ召集地迄ノ旅費及檢査不合格者ノ歸郷旅費概算額ハ之ヲ大隊區司令部ニ送付シ該司令部員又ハ司令部出張員ヨリ本人ニ交付スヘシ

○陸軍省令第二十九號

明治二十七年陸軍省令第二十號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治二十八年十一月二十九日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

〔參照〕

明治二十七年三月十日 陸軍省令第二十號ハ軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項新聞紙雜誌ニ記載禁止ノ件ナリ

明治二十八年十一月 省令 陸軍省第二十八號 第二十九號

○海軍省令第六號

明治二十七年海軍省令第十三號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治二十八年十一月二十九日

海軍大臣 侯爵西郷從道

〔參照〕

明治二十七年三月十日 海軍省令第十三號ハ軍艦軍隊ノ進退及軍機軍略ニ關スル事項新聞紙雜誌ニ記載禁止ノ件ナリ

○陸軍省令第三十號

徵兵事務條例施行細則中第七師管ニ施行シ難キ諸件ハ當分左ノ諸項ニ依ル

明治二十八年十一月三十日

陸軍大臣 侯爵大山 巖

一 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ初年及徵集ニ應スヘキ年ノ外身體ノ検査ヲ行ハス

二 明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ノ取扱ハ徵兵事務條例施行細則第十條ノ例ニ依ル

三 區戶長徵兵事務條例第二十三條同施行細則第一條ニ依リ壯丁名簿ヲ作ルニ當リ屯田兵ノ戶籍內ニ在ル者ハ其事由ヲ名簿ノ備考區畫ニ記載スヘシ

四 明治二十八年勅令第二百二十六號第三條ニ依リ徵集免除ニ屬スル者ハ身體ノ検査ヲ行ハス

五 徵兵事務條例第二十九條ノ徵集猶豫名簿ハ徵兵令第二十三條ニ當ル者ト明治二十八年勅令第二百二十六號第二條ニ當ル者ト各別ニ作ルヘシ

六 徵兵事務條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍入營兵集合地ハ函館トス

七 第七師管ニ在テハ徵兵事務條例施行細則中旅管徵兵署及之ニ屬スル職員ニ係ル規程ハ大隊區徵兵署及之ニ屬スル職員ニ師團司令部、師團長及旅團長トアルハ屯田兵司令部、屯田兵司令部官ニ府縣廳トアルハ北海道廳ニ市トアルハ區ニ町村長トアルハ戶長ニ適用ス

〔參照〕

法律第一號徵兵令(明治二十二年一月二十二日官報)抄錄

第十三條第一項

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週開陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

第三項

滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週開陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲ケル學校ニ在テハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過ケルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

外國ニ在ル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

三十二歳ヲ過ケル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

勅令第十三號徵兵事務條例(明治二十二年二月二十七日官報)抄錄

第二十三條 町村長ハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り二月十五日迄ニ島前又ハ郡長ニ差出シ 島前郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵集區ニ取調ヘ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ

市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十九條 壯丁ノ身體検査ニ關スルキハ 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第四十八條 現役兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ 大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ 大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ 大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ入營兵引率員之ヲ入營地ニ引率シ

近衛現役兵及海軍現役兵ハ其ノ集合地ニ引率シ入營兵引率員ニ交付スルモノトス但入營兵引率員出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ引率セシム

勅令第二百二十六號(明治二十八年九月二十一日官報)抄録

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島後志膽振石狩ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス
第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ
猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス
第三條 屯田兵ノ戸籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス

陸軍省令第一號徵兵事務條例施行細則(明治二十二年二月二十八日)抄録
第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市
町村長之ニ署名押印ス可シ

第十條 徵兵令第二十條第二十二條及第二十三條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十三條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵
兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ木人ニ附與シ郡又ハ
島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ木人ニ附與セシム可シ
徵兵令第二十二條ノ願ヲ許可セサル者ニハ其裁決書ヲ前項ノ例ニ依リ木人ニ附與ス可シ

○陸軍省令第三十一號

北海道渡島後志膽振石狩ノ四箇國ニ居住スル者ニシテ官費ヲ以テ一年志願兵トナル者ハ第二師管
第四旅管青森衛戍地屯在ノ歩兵隊ニ於テ服役セシム其願書ハ歩兵第四旅團長ニ差出スヘシ
明治二十八年十一月三十日
陸軍大臣 侯爵 大山 巖

○海軍省令第七號

海軍現役豫備後備軍人ニシテ明治二十七年省令第十一號ニ依リ服役ヲ延期シタルモノハ左ノ區別
ニ依リ其延期ヲ解ク
明治二十八年十二月二日
海軍大臣 侯爵 西郷 從道

一 現ニ召集中ニアラサル豫備後備軍人ハ本年十二月一日

二 現ニ召集中ノモノハ各其召集ヲ解キタル日

三 現ニ現役ヲ繼續スルモノハ各其現役ヲ免シタル日

○内務省令第十六號

米國ニ於テ發行スル新世界新聞第四百二十四號第四百二十五號第四百二十八號第四百三十一號第
四百三十七號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ依リ自今内國ニ於ケ
ル發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フヘシ
明治二十八年十二月六日
内務大臣 子爵 野村 靖

○陸軍省令第三十二號

臨時廣島軍用水道施設部ニ於テ購入スル材料諸品供給ノ競争ニ加ハラントスル者ノ資格ニ就テハ
明治二十七年陸軍省令第四號ノ規定ニ準據ス但シ擔當技術者ニ係ル事項ハ此ノ限ニアラス
明治二十八年十二月六日
陸軍大臣 侯爵 大山 巖

(参照)

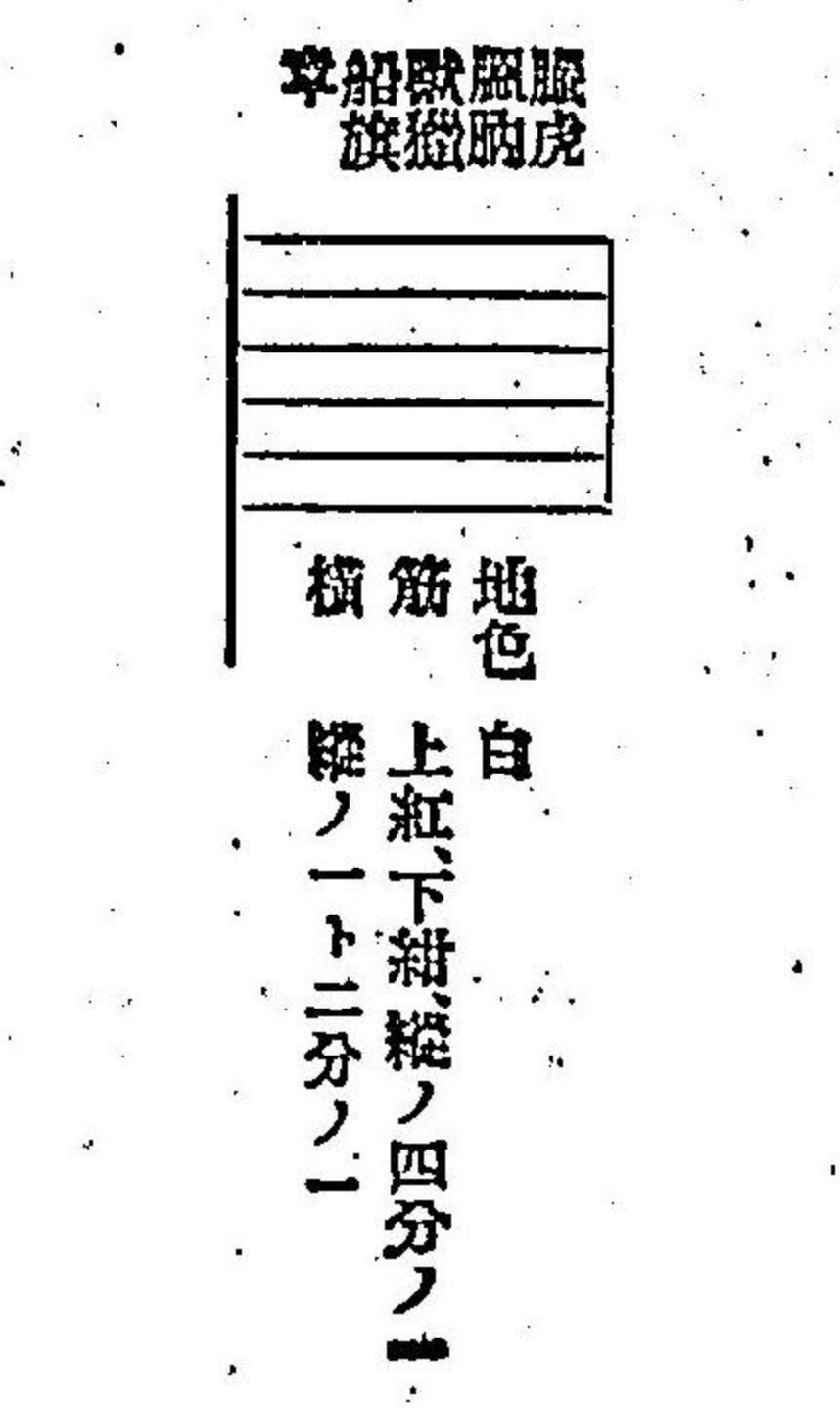
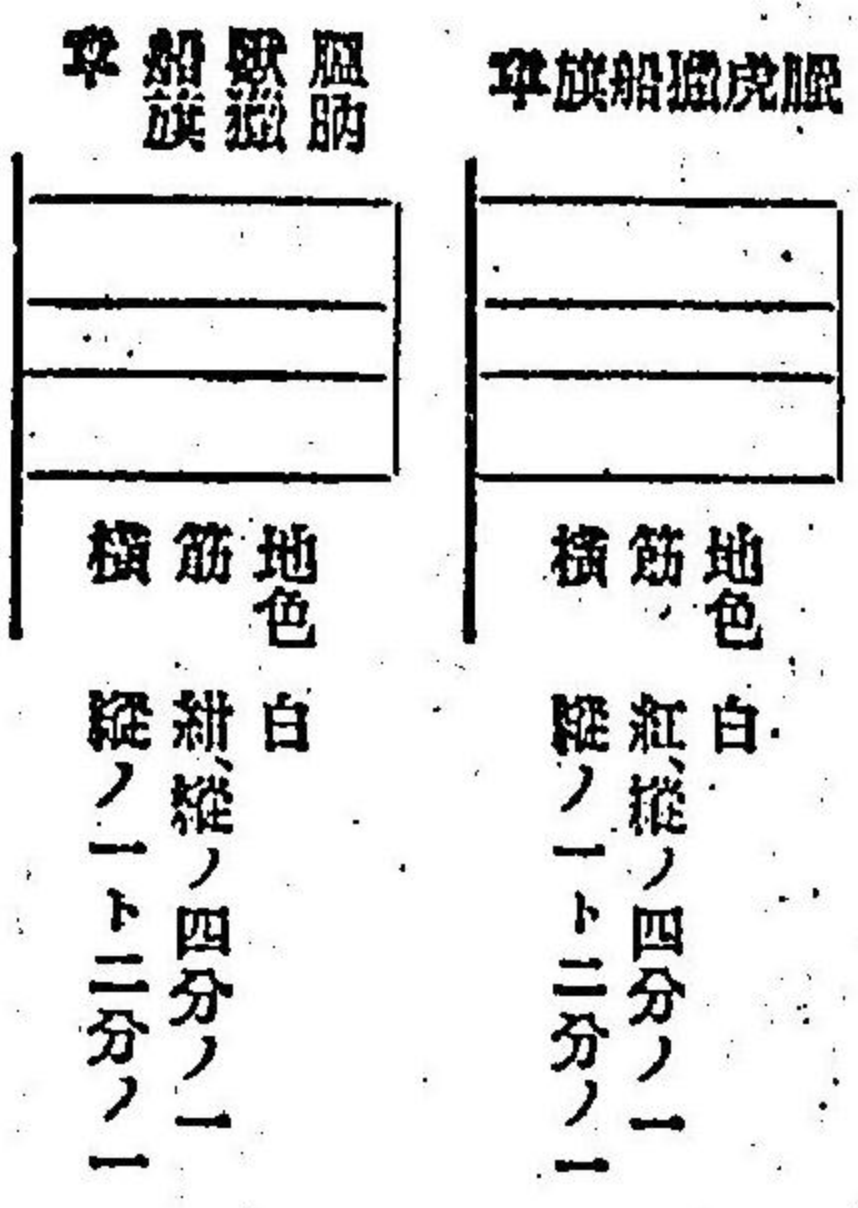
明治二十七年三月三陸軍省令第四號ハ工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ノ資格ニ關スル規定ナリ

○農商務省令第十二號

臘虎臘脚獸獵免許規則左ノ通相定ム
明治二十八年十二月六日
農商務大臣 子爵 榎本 武揚

臘虎臘脚獸獵免許規則

第一條 臘虎若クハ臘脚獸ヲ獵獲セントスル者ハ其住居地又ハ獵船定繫場管轄ノ地方長官(東京府
下ハ警



第六條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ常ニ免許證ヲ携帯シ軍艦艦長警察官吏税關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第七條 獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事シタルトキハ終了ノ後二箇月以内ニ於テ其ノ獵獲シタル鷹虎鷹船旗ノ獵獲時日頭數獵獲場所及獵業ニ使用シタル端艇ノ數乘組員ノ種別人員ヲ詳記シ管轄地方廳(東京府下ハ警視)ヲ經由シテ農商務省ニ報告スヘシ

第八條 獵業免許ヲ得タル者第三條ノ免許證ヲ亡失毀損シ又ハ第二條第二第三第四ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ免許證ノ下渡又ハ訂正ノ願書ヲ管轄地方長官ニ差出スヘシ

第九條 獵業免許ヲ得タル者獵業ヲ廢止シ又ハ第四條第二項ニ據リ免許ノ效ヲ失ハタルトキハ直ニ免許證ヲ管轄地方廳ニ返納スヘシ

○司法省令第十號
札幌地方裁判所管内及根室地方裁判所管内ニ左ノ登記所ヲ置キ明治二十九年二月一日ヨリ其事務ヲ取扱フ

一 札幌地方裁判所管内札幌區裁判所管轄夕張郡由仁村ニ由仁登記所ヲ置キ夕張郡ヲ其管轄トス
上川郡旭川村ニ旭川登記所ヲ置キ上川郡ヲ其管轄トス
空知郡瀧川村ニ瀧川登記所ヲ置キ空知郡ノ内瀧川村、奈江村樺戸郡ノ内新十津川村及南龍郡ヲ其管轄トス
此田郡此田村ニ此田登記所ヲ置キ此田郡ヲ其管轄トス
勇拂郡鶴川村ニ鶴川登記所ヲ置キ勇拂郡ノ内鶴川村、井目戸村、雨別村、生籠村、似灣村、累標村、穗別村、邊富内村ヲ其管轄トス
一 札幌地方裁判所管内増毛區裁判所管轄利尻郡鴛泊村ニ鴛泊登記所ヲ置キ利尻郡ノ内鴛泊村、香形村、本泊村ヲ其管轄トス
禮文郡船泊村ニ船泊登記所ヲ置キ禮文郡ノ内船泊村、神崎村ヲ其管轄トス
一 根室地方裁判所管内根室區裁判所管轄國後郡留夜別村ニ留夜別登記所ヲ置キ國後郡ノ内留夜別村、大瀧村ヲ其管轄トス
一 根室地方裁判所管内釧路區裁判所管轄河西郡下帶廣村ニ帶廣登記所ヲ置キ河西郡、河東郡、上川郡ヲ其管轄トス
明治二十八年十二月二十日
司法大臣芳川顯正

○司法省令第十一號
一 函館地方裁判所管内函館區裁判所管轄札内登記所ヲ木古内登記所ト改稱シ山越内登記所ヲ八雲登記所ト改稱シ壽都區裁判所管轄能津登記所ヲ島古丹登記所ト改稱ス
一 札幌地方裁判所管内札幌區裁判所管轄別特登記所ヲ厚田登記所ト改稱シ東紋盤登記所ヲ紋盤登記所ト改稱シ幌泉區裁判所管轄佐瑠太登記所ヲ門別登記所ト改稱シ増毛區裁判所管轄天登雁登記所ヲ鬼鹿登記所ト改稱ス
明治二十八年十二月二十日
司法大臣芳川顯正

○陸軍省令第三十三號

陸軍豫備兵定時演習ハ明治二十九年ニ限り明治二十三年陸軍省令第二號規定ノ外第一及第三師管ニ於テ在役第一年第三年ノ歩兵工兵輜重兵竝ニ第一年第二年ノ騎兵ヲ召集ス

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

明治二十八年十二月二十五日

〔參照〕

陸軍省令第二號(明治二十三年一月十一日)
陸軍豫備兵ノ定時演習召集ハ陸軍召集條例ニ依リ服役日滿者ヨリ番號ノ順序ニ召集團體ヲ臨時定員ニ充足シ殘餘ノ者ハ召集不致候處本年ヨリ在役第二年第四年ノ者ヨリ召集スルコトアルヘシ
要スル場合ハ其年級ニ拘ハラズ召集スルコトアルヘシ

